

実践的防災訓練事例集 【平成 29 年度版】

平成 29 年 12 月

教育局総務室教育ビジョン・防災グループ

はじめに

東日本大震災から6年半が経過しましたが、「首都直下型地震」をはじめとする大規模地震の切迫性が高まっているとともに、近年は、熊本地震や記録的な豪雨などの自然災害により、甚大な被害を受けるとともに、尊い命が失われています。そうした自然災害から児童・生徒の大切な「いのち」を守らなければなりません。

児童・生徒の「いのち」と地域の方々の「いのち」を守るためには、学校の立地条件や特徴を踏まえて、日頃から学校と地域・保護者とが「顔の見える関係」を作り上げておくとともに、連携・協力して災害時を想定した実践的な防災訓練等を実施することがたいへん有効です。

この冊子は、各学校が地域との「顔の見える関係」づくりを行う際のヒントとなるよう、地域と連携した取組みや実践的な防災訓練などの取組みを進めている学校の事例をまとめました。また、障害のある児童生徒に配慮した対応の参考となるよう、今年度より特別支援学校の訓練事例もとり入れました。

この事例集を参考に、全ての県立学校において、防災対策の推進が図られることを願っています。

平成29年12月

神奈川県教育委員会教育局

総務室長 落合 嘉朗

目次

■地域と連携した防災訓練■

事例 1	川崎北高等学校	P. 2
事例 2	相模田名高等学校	P. 4
事例 3	相模原中等教育学校	P. 6
事例 4	瀬谷養護学校	P. 8
事例 6	平塚養護学校	P. 10
事例 6	茅ヶ崎養護学校	P. 12
事例 7	横浜ひなたやま支援学校	P. 14

■DIG（災害図上訓練）■

事例 8	希望ヶ丘高等学校	P. 18
事例 9	磯子工業高等学校	P. 20
事例10	大楠高等学校	P. 21
事例11	秦野高等学校	P. 22
事例12	鎌倉養護学校	P. 24
事例13	相模原養護学校	P. 26
事例14	相模原中央支援学校	P. 27

■宿泊訓練■

事例15	平塚商業高等学校	P. 30
事例16	深沢高等学校	P. 36
事例17	西湘高等学校	P. 42
事例18	大和西高等学校	P. 46
事例19	津久井高等学校（定時制）	P. 50
事例20	鶴見養護学校	P. 56
事例21	津久井養護学校	P. 64

■障害に配慮した訓練（特別支援学校）■

事例22	三ツ境養護学校	P. 72
事例23	金沢養護学校	P. 74
事例24	相模原中央支援学校	P. 76



■地域と連携 した防災訓練■

事例1 川崎北高等学校 「幼稚園等と連携した防災訓練」

名 称	平成29年度防災教育
日時・場所	平成29年8月30日（水）9時～11時40分 ホームルーム教室、グラウンド、体育館、職員玄関前駐車場、中庭
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に直面した時、自らの命を守るとともに他者の命を守る意識を育成する。 ○地震を想定した避難訓練を実施することで、生徒の迅速な避難および安全の確認を行う。 ○消防署による講話や体験授業によって、災害に対する日常的な心構えや災害発生時の行動などについて学習する。 ○災害時帰宅グループや帰宅ルートを確認し、安全に帰宅するための準備を行う。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	中有馬保育園、高津養護学校分教室
参加人数	自校生徒987名・教職員60名、中有馬保育園50名、高津養護学校分教室24名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> 5月 所掌グループで企画を立案 6月 企画会議、職員会議で提案、教職員に周知 宮前消防署との打合せ 中有馬保育園、高津養護学校分教室へ参加の依頼 7月 生徒に周知
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練・防災講話（川崎北高等学校生徒、高津養護学校分教室生徒） 大規模地震が発生した想定で、避難訓練を行った。 <ul style="list-style-type: none"> （1）各教場で、シェイクアウト訓練を行った。 （2）グラウンドへの避難訓練を行い、校長の講評、宮前消防署署員の講評、防災講話を受けた。 ○体験授業 <ul style="list-style-type: none"> （1）自校1年生徒、高津養護学校分教室生徒、中有馬保育園園児 水消火器を用いた初期消火訓練、煙体験ハウスでの煙体験訓練を行った。 （2）自校2年生徒、高津養護学校分教室、中有馬保育園園児 地震体験車で地震体験をした。 （3）自校3年生徒 応急救護訓練として、心肺蘇生訓練用マネキン、訓練用AEDを用いた心肺蘇生法講習を受けた。 ○帰宅訓練（集合のみ）・災害図上訓練（自校生徒のみ） <ul style="list-style-type: none"> ・災害時帰宅方面グループにそれぞれ分かれて集合した。 ・生徒同士の顔合わせを行い、班長と副班長を選出した。 ・ハザードマップを作成し実際の帰宅ルートの確認とともに、家屋や塀の倒壊を想定し大きな道を迂回して帰宅するルートも確認した。また、地域の危険個所、公共施設、医療機関、避難所、防災倉庫・工場の確認や帰宅途中の留意点について、生徒に意見を出させた。

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【保育園職員】 ○川崎北高校の生徒と交流できてよかった。</p> <p>【教職員】 ○今回、避難経路で、公道を横断することがあり、安全面に注意して実行することができた。 ○合同の訓練で、全体の動きが確認できてよかった。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○自校生徒、高津養護学校分教室生徒、中有馬保育園園児が体験授業に参加できるようにした。</p>
<p>成 果</p>	<p>○宮前消防署の協力により、体験学習の内容を充実することができ、災害に対する日常的な心構えや災害発生時の行動などについて学習することができた。 ○災害図上訓練を通じて、地域理解を深め、学校周辺の危険個所を情報共有することができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>公道の横断時における安全確保等、避難経路について検討していきたい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>今後、授業等での活用を含め、より内容の充実に努めていきたい。</p>

事例2 相模田名高等学校 「自治会、消防署と連携した訓練」

名 称	防災避難訓練
日時・場所	平成29年5月15日（月）14時25分～15時15分 グラウンドほか
学習のねらい	○地震発生時における迅速な避難 ○誘導と適切な対処訓練
主 催	学校主催（地震）
参加団体	半在家自治会、相模原消防署
参加人数	自校生徒805名・教職員60名、半在家自治会5名、相模原消防署10名
事前準備	3月 所掌グループで企画し、同時に消防署との連絡調整並びに申請書類を提出 企画会議で提案、職員会議で報告し教職員に周知 4月 新年度着任者を含む教職員に再度周知。近隣自治会に参加依頼 5月 関係各位との最終確認
実施内容	<p>○想定地震によるグラウンドへの避難訓練を全校生徒が行った。その後、各学年に分かれ、消防署員の協力のもとで地震や火災の際の対処のしかたを学んだ。</p> <p>(1) 地震避難訓練 各ホームルームにおいて、安全確保の訓練をした後、地震に起因する出火の想定でグラウンドへの避難訓練を行った。 これについて消防署員の講評を受けた。</p> <p>(2) 実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火訓練 : 1年生が消火の状況判断と消火器の操作方法を学んだ。 ・起震車体験 : 2年生が起震車による揺れととっさの行動を体験した。 ・煙体験 : 3年生が煙の中を移動して避難する体験をした。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【起震車体験】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【煙体験】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【自治会】 ○迅速な避難訓練ができていた。自治会でも起震車体験等を実施しており、経験がより効果的である。</p> <p>【教員】 ○避難集合は普段と変わらず速やかにできていた。人数確認に手間取ってしまったのが残念。</p>
工夫した点	内容のあるもので、かつ授業確保の観点からも実施できるよう計画した。

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練を通して、生徒の防災に対する意識を高めることができた。 ○起震車や煙体験をすることで、災害の恐ろしさを体験できた。 ○消火訓練をすることで、消火器の適切な使い方を体験できた。 ○地域関係者に参加を依頼して、訓練の理解を得た。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○人数確認終了まで全員の意識を持続させること。 ○時間内に終了できるように企画を見直すこと。
今後の展開	<p>本校の他の行事と違い、防災訓練の面での地域連携は歴史が浅い。今後、地域の方々と共に考え参加できる企画が望まれる。</p>

事例3 相模原中等教育学校 「大規模地震を想定した避難訓練」

名 称	防災避難（帰宅班確認等）訓練
日時・場所	平成29年9月26日（火）14時5分～15時45分 グラウンド
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模地震が発生したときに、誘導・避難・人員確認までを安全かつ迅速に行えるようにする。 ○様々な経験をすることにより、防災に対する意識を高め、他者の気持ち・行動を想像できる力をはぐくむ。 ○市機関との連携を図る。
主 催	学校・地域共催（地震）
参加団体	相模原市南消防署、相模原市
参加人数	自校生徒937名・教職員63名、相模原市南消防署10名、相模原市30名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○地震発生時の避難および点呼 避難経路の徹底・集団下校グループの作成及び周知 ○起震車・消火体験・煙体験 消防署との打合せ・起震車体験・消火体験のグループ決め ○市の帰宅困難者誘導訓練 市との打合せ・帰宅困難者役生徒の移動方法の確認
実施内容	<p>○地震での避難訓練に加えて、起震車体験や煙体験等を行い、防災について体感して考えられる訓練を行った。</p> <p>(1) 地震発生時の避難及び点呼確認 地震発生時における自身の安全確保・避難および点呼確認・集団下校グループの確認</p> <p>(2) 起震車体験 起震車にて過去の大地震の震度を体感する。</p> <p>(3) 煙体験 煙（実際は水蒸気）が充満した空間に入り状況を体感する。</p> <p>(4) 水消火器体験 水消火器を利用して消火する体験をする。</p> <p>(5) 帰宅困難者誘導訓練 生徒が帰宅困難者役と誘導される側の体験する。</p>



【市職員から避難誘導の説明を受ける】



【最寄り駅から自校までの避難訓練】



【起震車体験】

参加者の 主な声	起震車・煙体験・水消火器訓練では、「怖かった」という声が多く聞かれた。また、帰宅困難者の誘導者（市の職員）からは、誘導が大変なことが分かったという声が聞かれた。
工夫した点	○地震発生時の避難訓練の1ヶ月ほど前にシェイクアウト訓練を行い、防災の意識を高めた。 ○実際の状況により近づけるため、帰宅困難者の誘導では、教員は誘導者の補助をあえて行わなかった。（例年市職員が生徒を誘導する際に本校の教員が誘導の援助を行っていたが本年は行わなかった。）
成 果	○起震車・煙体験・消火器訓練などを体験することにより、被災した場合に、訓練前よりも落ち着いて行動できると思われる。 ○帰宅困難者の誘導される側になる訓練では、教員以外の大人の指示で行動する体験ができた。
課 題	生徒・職員の意識の向上を図り、保護者との連携も含め形だけの訓練としてでなく、被災したときに実用的な訓練にしていくこと。
今後の展開	引き取り訓練、シェイクアウト訓練を実施する予定。

事例4 瀬谷養護学校 「緊急地震速報受信装置を活用した訓練」

名 称	平成29年度 第2回 避難訓練
日時・場所	平成29年9月7日(木) 10時～11時 各教室、グラウンド
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急地震速報受信装置を活用した避難訓練を実施することにより、地震発生時に児童生徒に落ち着いて行動する態度を身に付けさせる。 ○起震車体験により、地震の際の対応を学習する。 ○煙体験(煙体験ハウス)により火災で煙が発生した際の対応法を学習する。
主 催	学校主催(地震)
参加団体	瀬谷区災害ボランティアネットワーク、瀬谷消防署、瀬谷養護学校PTA
参加人数	自校生徒234名・教職員137名、保護者3名、瀬谷消防署8名 瀬谷区災害ボランティアネットワーク8名
事前準備	6月 消防署に起震車、煙体験ハウス設置の依頼 7月 瀬谷区災害ボランティアネットワークに避難訓練参観の依頼 7月 PTA本部役員に避難訓練参加の依頼
実施内容	<p>○緊急地震速報受信装置を活用した避難訓練を実施した。</p> <p>(1) 避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を合図に避難行動(シェイクアウト)を行い、地震発生時に落ち着いて行動できる態度を身につける。 ・地震による避難経路、避難場所の確認と安全な避難行動を身につける。 <p>(2) 煙体験</p> <p>煙体験ハウスを活用し火災で煙が発生した際の対応法を身につける。</p> <p>(3) 起震車体験</p> <p>起震車を活用し地震の際の安全確保行動を身につける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【保護者も防災ヘルメット着用で避難訓練参加】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【煙体験ハウスで訓練】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【瀬谷区災害ボランティアネットワーク】</p> <p>○児童生徒は緊急地震速報を聞き机の下にもぐるなど真剣に身の安全確保を行っていた。</p> <p>【保護者】</p> <p>○我が子が真剣に避難行動に参加していたので感心した。</p> <p>【教員】</p> <p>○緊急地震速報を活用した訓練は、回を重ねるごとに上達している。</p>


工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方や保護者に避難訓練の様子を参観していただくよう年度当初から周知した。 ○起震車体験、煙体験ハウスをできるだけ多くの児童生徒が参加できるように避難訓練ごとに依頼をした。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○地震が発生した際の避難経路の確認ができた。 ○地震が発生した際の安全確保行動を身につけることができた。 ○救護訓練を実施し、職員救護班員の救護手順の確認ができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○雨天時の避難場所の確保（テントが不足している）。 ○防火シャッターの円滑で安全な操作の習得（防火シャッターが手動操作のため）。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や保護者との連携を深めるためにも、学校からのさらなる情報発信に努める。 ○防災減災につながる必要物品の充実を図る。

事例5 平塚養護学校 「PTA主催の防災フェスティバル」

名 称	ひらよう防災フェスティバル
日時・場所	平成29年7月21日（金）10時～14時 体育館、食堂、児童生徒昇降口前、高等部教室
学習のねらい	○「防災」 校内の災害対策の様子を知り、防災に対する意識を高める。 ○「体験」 消防車を見学し、実際の消火機器に触れたり話を聞いたりする。 ○「フェスティバル」 縁日や催し物を通して、お祭りの楽しい雰囲気味わう。
主 催	平塚養護学校PTA（地震）
参加団体	平塚養護学校PTA、熊本県人会、長野県人会、福島県人会、平塚市消防署金目出張所、株式会社ヒラボウ
参加人数	自校児童生徒180名・教職員160名、保護者100名、協力団体20名、消防署4名 計464名
事前準備	5月～6月 計画立案 校内お知らせ配付 6月 関係団体への参加呼びかけ 7月 ちらし等での参加呼びかけ
実施内容	<p>○児童生徒並びに保護者、職員が防災について楽しく学ぶ機会として、防災用品の展示、備蓄物品の紹介、消防車見学などを行う。</p> <p>(1) 防災用品の展示 身近な材料（段ボール、新聞紙など）を使ったものや、100円ショップで購入できるものを利用した防災グッズなどの紹介</p> <p>(2) 備蓄物品の紹介 備蓄食料や水、発電機等備蓄物品はどのようなものがあるか、どの場所に保管してあるか、校内のマップを紹介</p> <p>(3) 消防車見学 消防隊員の話、防火服体験、消火機器の紹介</p> <p>(4) フェスティバル 的当て、ヨーヨーつりなどの縁日スタンプラリー。教員によるバンド演奏、ダンスなどのパフォーマンス</p>
	 <p>【備蓄物品の校内マップ】</p>
	 <p>【消防隊員のはなし】</p>
	 <p>【防災用品の展示】</p>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【児童生徒】 ○消防服を着て消防士さんと写真を撮ったり、バンド演奏もあったりして楽しかった。</p> <p>【保護者】 ○校内の備蓄物品がどこに保管されているか知ることができた。</p> <p>【教員】 ○「楽しみながら防災を学ぶ」という主旨は生かされていた。今後、校内の意識を高めるための工夫、地域と連携した取組みを考えていけるとよい。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○昨年度までの「PTA夏まつり」の要素を盛り込み、児童生徒が楽しく参加できる雰囲気づくりを行った。</p> <p>○ふだん近くで見ることができない消防車の見学を行い、消防機器に触れたり隊員の方の説明を聞いたりする機会を設定し、関心を持てるようにした。</p> <p>○災害を経験された地域の県人会の方に来ていただき、物産の販売を通して復興支援を行ったり、お話を伺ったりする機会を設けた。</p>
<p>成 果</p>	<p>児童生徒並びに保護者、職員の防災についての意識を高める機会とすることができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>今年度から始めた企画のため、内容の検討や参加率の向上など、今年度の取組みを検証して課題を探っていく。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>今年度は、防災委員会発足までの準備期間としてPTA本部を中心に進めてきた。来年度は、PTA組織の中に防災委員会を立ち上げ、学校とPTAが協力して、校内の防災意識を高めるため研修会や防災センターの見学、ワークショップなどを計画していきたい。</p>

事例6 茅ヶ崎養護学校 「福祉避難所開設の初動訓練」

名 称	防災シミュレーション
日時・場所	平成29年7月26日（水）9時～11時30分
学習のねらい	○西久保自治会及び茅ヶ崎市職員に参加してもらい、大規模災害時における連携について考える。 ○避難所設営に必要な機材の組立ての訓練を行う。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	西久保自治会、茅ヶ崎市（障害福祉課、防災対策課）
参加人数	自校教職員80名、西久保自治会1名、茅ヶ崎市職員5名
事前準備	○二次応急要員に対する避難所設営・準備に関する事項の事前説明 ○避難所開設に必要な物品の確認・補充 ○避難所開設・設営に関する体験研修で使用する物品の準備・動作確認
実施内容	<p>(1) 参集及び校内巡視訓練 休日想定した職員の参集及び校内巡視訓練</p> <p>(2) 避難所立上げ訓練 福祉避難所開設要請から、避難者受入れまでの初動訓練</p> <p>(3) 避難者受入れ・誘導訓練 避難所開設完了後の避難者の受入れ、状況の聞き取り、避難場所への誘導訓練</p> <p>(4) 炊き出し・喫食訓練 給食給水班によるアルファ米の調理、配付、喫食訓練</p> <p>(5) 防災用品組立て体験訓練及び機器の動作確認 発電機、投光機、仮設トイレ、防災テント、エコスペース組み立て・動作確認</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【二次応急要員参集】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【仮設トイレ組立て】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【自治会】 ○自治会は災害時に地区の避難所運営に当たるため、本校への参集は難しくなることが予想される。教職員が中心となって福祉避難所を運営していくシステムづくりが必要になる。</p> <p>【教員】 ○災害時のシミュレーションを行うことで、全職員で避難所立上げに関する事項を確認することができた。</p>

工夫した点	今年度の体験研修では、他のグループが組み立てた物品を見学する時間を設けた。このことで全職員で物品の動作確認、用途等を確認することができた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○二次応急要員の職員で、校内の巡視手順の確認及び学校長・防災対策本部との連絡方法の確認ができた。 ○避難所開設に向けた役割分担や各班の動き、受入れ方法等を参集者で確認することができた。 ○体験を通して、それぞれの機器の動作確認が行えた。 ○本研修を通して職員の防災意識を高めることができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○茅ヶ崎市との連絡調整だけでなく、寒川町との連絡・協力体制の確認が今後必要。 ○本校は福祉避難所の指定を受けているが、一般の避難者が避難してきた際の対応について確認が必要。
今後の展開	二次応急要員マニュアルを作成し、学校の解錠、巡視の訓練を行う。

事例7 横浜ひなたやま支援学校 「地域防災避難訓練に参加」





名 称	横浜ひなたやま支援学校 地域防災拠点秋季防災避難訓練	
日時・場所	平成29年9月3日（日）9時～12時30分 グラウンド、体育館、駐車スペース、調理室、ふれあいルーム	
主 催	地域主催（地震）	
参加団体	宮沢町内会自治会、ひなた山第一自治会、ひなた山第二自治会、ひなた山第三自治会、グリーンハイム自治会、ホーユーパレス自治会、ライオンズマンション自治会、瀬谷消防署下瀬谷出張所、横浜市港湾局山下埠頭再開発調整課、横浜市資源循環局南事務所、横浜市瀬谷区生活支援課、横浜市瀬谷区税務課、横浜市瀬谷区こども家庭支援課、横浜市泉区総務部税務課、横浜市立南瀬谷中学校	
参加人数	自校教職員5名、宮沢町内会自治会20名、ひなた山第一自治会83名、ひなた山第二自治会31名、ひなた山第三自治会76名、グリーンハイム自治会21名、ホーユーパレス自治会6名、ライオンズマンション自治会12名、瀬谷消防署下瀬谷出張所7名、横浜市港湾局山下埠頭再開発調整課1名、横浜市資源循環局南事務所1名、横浜市瀬谷区生活支援課1名、横浜市瀬谷区税務課1名、横浜市瀬谷区こども家庭支援課1名、横浜市泉区総務部税務課1名、横浜市立南瀬谷中学校教職員2名、横浜市立南瀬谷中学校生徒10名	
事前準備	5月 地域防災拠点チーフ会議 6月 地域防災拠点第1回運営委員会 8月 地域防災拠点第2回運営委員会 地域防災拠点最終打合せ	
実施内容	<p>○地域防災拠点秋季防災避難訓練</p> <p>(1) 消火(小型消火器)、放水(消火栓)訓練 (2) 情報伝達訓練 (3) 循環式地下貯水槽から取水体験 (4) 救急救命訓練 (5) 搬送訓練・車椅子操作訓練 (6) 握り飯作成(400個)および配給訓練 (7) 体育館収容および居住体験 (8) 備蓄庫保管物品の公開</p>	 <p>【指定避難所となっている自校】</p>
	 <p>【循環式地下貯水槽から取水体験】</p>	 <p>【消火訓練、救急救命訓練】</p>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【自校教職員】 地域の方々とふれ合い、防災避難訓練本部のお手伝いや地域防災の実技実習など有意義な体験ができた。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>地域防災拠点運営委員会主催で、各自治会で新しく防災担当になった方を対象に、7月に消火、放水、取水の研修と備蓄庫保管物品の確認等を実施した。</p>
<p>成 果</p>	<p>○消化ホースを使った消火訓練から、給水場所と放水の仕方を確認できた。 ○飲料用の給水訓練から、給水場所と給水の仕方を確認できた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○本校は、地域防災拠点に指定されており、実際に近隣の被災者が本校に来た場合、生徒と共同生活を送ることになる。 ○現在、本校に在籍する生徒には近隣の自治会に住んでいる者はいない。 ○訓練は例年、休日に行われており、本校の生徒の参加が困難なことがかねてからの課題である。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>引き続き、地域防災拠点としての役割を担っていく。</p>

■ DIG ■

(災害図上訓練)

事例8 希望ヶ丘高等学校

名 称	第二回 防災避難訓練・机上避難訓練・喫食訓練 (DIG)
日時・場所	平成29年8月30日(水) 11時25分～12時15分 校内全体、体育館、各HR教室
学習のねらい	①災害時に、安全に迅速に避難できるようにする。(シェイクアウト訓練) ②一人の時にも自分で判断し避難できるよう想像力を身につける。(机上避難訓練) ③非常食の概要を知る。(喫食訓練)
主 催	学校主催(地震と火災)
参加人数	自校生徒1,000名・教職員53名
事前準備	4月 消防署に連絡 日程的に消防署は訓練には参加できないことを確認 →よって消火訓練などは行えないと判断 5月 下記原案を作成 職員会議に提案 7月 美化委員会招集 訓練の概要を説明し協力を依頼 8月 実施確認
実施内容	<p>総合の時間終了と同時に緊急放送 (生徒は総合の内容に応じて各自活動中)</p> <p>(1) シェイクアウト訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急放送「訓練、訓練。ただいま地震が発生しました。直ちに机の下にもぐり揺れがおさまるのを待って下さい。」の後、シェイクアウト訓練 <p>(2) 避難誘導訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員は「頭を守って揺れがおさまるのを待つよう」に指示する。 緊急放送「訓練、訓練。地震はおさまりましたが、食堂付近から出火しました。教室の窓を閉めてカーテンは開けた状態にして、生徒は直ちに体育館に避難して下さい。」 教員は生徒に、避難するように指示する。 生徒は現在居る場所から自分で避難経路を考えて(危険な場所を避けて)避難する。 点呼、校長の講話 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【停電を想定し、マイクを使わない。プラカードで指示】</p> <p>(3) 机上避難訓練(災害図上訓練(DIG))</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室で机上避難訓練ワーク「地震がきました!」を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">【美化委員が机上避難訓練「地震がきました」のファシリテーター役をしている様子】</p> <p>(4) 喫食訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室で乾パンを食し、非常食を体験する。

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○「机上避難訓練」をしたことで、自分の部屋のレイアウトが危険だと分かったので家具の転倒などを考え配置を変えようと思う。 ○「地震がきました」をやってみて、夜だったら本棚の下敷きになって死んでしまうことが分かった。 ○もし大きな地震でガラスが割れたら自分に降ってくるということが分かった。</p> <p>【教員】 ○例年の避難訓練は教室からグラウンドへ整列しての避難で、生徒自らが考えて判断する必要はなかった。しかし、現実には地震が起きた時に全員が教室にいるとは考えにくい。よって今回のそれぞれの場所から自分で判断して避難する訓練はよかったと思う。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○例年、ホームルーム教室から担任の先導でグラウンドに避難していたが、総合学習でそれぞれがバラバラの場所で活動中の状態から各自で判断して避難することにより、より現実に近い訓練にした。 ○「地震がきました」机上避難訓練ワークは、まず美化委員会で実施し美化委員に体験してもらった上で、実際の訓練の際にはファシリテーターとなってクラスをまとめてもらった。 ○ワークでは身近な場所（多くが自分の家）で地震が起きたことを想定した。</p>
<p>成 果</p>	<p>○ホームルーム教室から一斉に避難するのではなく、総合で活動中の場所から各自で判断して避難したことにより、自ら考えて避難する「自助」の訓練ができた。 ○自宅などのレイアウトを描き、その場で地震が起きたらという設定で仮想訓練をしたことにより、家具の配置や寝る位置について現実的に考えられるようになったようである。</p>
<p>課 題</p>	<p>○消防署は日程が合わなかったので校内のみの訓練としたが、煙体験や消火訓練など実地に取り組む機会を作りたい。 ○天気に左右されることを避け体育館への避難とした。入口が1つであることから整列に時間がかかったので工夫したい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>訓練内容を充実していく。</p>

事例 9 磯子工業高等学校

名 称	帰宅班に分かれて行う災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に災害が起きたときの状況を考えながら訓練を行う。 ○災害時の生徒帰宅班別の集合場所を確認する。 ○災害図上訓練（D I G）により災害時を想定し、本校周辺の危険箇所及び利用可能施設を確認する。
日時・場所	平成29年8月31日（木） 全ホームルーム（HR）教室
実施教科等 （実施時間）	ロングホームルーム（LHR） （実施時間 1時間45分）
参加人数	生徒665名・教員77名
ファシリテーター	自校の教員（保健環境・施設管理グループ）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">○生徒帰宅班別名簿 <li style="width: 50%;">○視聴覚機器 <li style="width: 50%;">○白地図（A 1版） <li style="width: 50%;">○防災マップ（A 1版） <li style="width: 50%;">○土砂災害ハザードマップ（A 1版） <li style="width: 50%;">○赤ペン <li style="width: 50%;">○色シール（5色） <li style="width: 50%;">○まとめ用紙（A 4版）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒帰宅班別集合訓練と避難誘導訓練、及び災害図上訓練（D I G）を行った。 ○生徒を住居地域別の帰宅班ごとに指定の教室に集め、帰宅経路の確認をした。 ○その後、全校生徒を集合場所（体育館）へ避難誘導した。そこで全校生徒にD I G訓練の要旨を説明し、各HR教室に戻ってD I G訓練を実施した。
参加者の 主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校周辺の土砂災害警戒区域、災害時に利用できる公共施設、必要な物資を購入可能な商業施設が分かった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒のD I G訓練への取組が、予想以上に積極的であったことが印象深い。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○5色シールを使用し、生徒一人ひとりの役割分担を決めやすくした。 ○白地図、災害マップ、ハザードマップともA 1版を使用し、各班6名が同時に閲覧した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が熱心に取り組み、実際に災害が起きたときの状況を考えながら訓練を行うことができた。
課 題	D I G訓練に必要な物品購入費用の確保
今後の展開	訓練内容をさらに充実させる。

事例10 大楠高等学校



名 称	各種のハザードマップを活用した災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	大地震などを想定し、避難経路、負傷者の手当て、食料確保などの課題を地図を利用して訓練を行い、災害に備える。
日時・場所	平成29年8月24日（木）13時～14時30分 被服室
実施教科等 （実施時間）	職員対象研修 実施時間 1時間30分
参加人数	教職員36名（校内教職員研修）
ファシリテーター	自校の教員（管理運営グループリーダー）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○県の研修を事前に受講 ○マーカー、シール、付箋、プロジェクター、スクリーンを用意 ○模造紙大の学校周辺の地図及び行政のハザードマップを班の数用意 ○講師が作成したパワーポイントの冊子を人数分用意
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> （1）本校周辺の地形図に、行政機関が発行した土砂災害ハザードマップ、津波ハザードマップ、横須賀市震度マップ、洪水ハザードマップの危険地域を記入する。 （2）作成した地図を見て、災害発生時にどのような状況が想定されるかを話し合う。 （3）発表及び講師からの講評。
参加者の 主な声	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害時を想定した避難経路を確認できて役に立った。 ○学校周辺の地形、病院の位置などの情報を確認することが重要である。 ○災害時に避難する際、けが人をどのように運ぶか、病院の位置、河川、海、幹線道路、危険地域などを確認できてよかった。 ○生徒が同じようにできるか、生徒に対し同じように指導できるか、不安である。
工夫した点	大きな地図に書き込む共同作業なので、被服室の大きなテーブルを使ってグループ作業をしやすいようにした。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ハザードマップにより学校周辺の危険地域を知ることができ、災害時の生徒の避難誘導に役立てることができた。 ○9月の総合的な学習の時間に、1年生対象にD I G研修を実施することができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○D I Gに精通した人材の確保 ○講師の派遣
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練内容のさらなる充実 ○生徒に対する継続した研修の実施

事例11 秦野高等学校

名 称	ホームルームを活用した災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○災害図上訓練を通して、学校周辺の防災上の特徴を知り、防災意識を高める。 ○仲間とともに地図の作成を行ったり話し合ったりすることで、災害時に協力できる体制を整える。
日時・場所	平成29年9月8日（金） ホームルーム
実施教科等（実施時間）	ホームルーム （実施時間 45分）
参加人数	自校生徒361名・教職員16名
ファシリテーター	自校の教員
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○学校周辺地図（各班2枚）カラーシール（5色）を準備 ○D I Gの解説、班ごとの話し合いメモ、アンケート用紙を準備 ○1年の担任団に事前に研修を行い、スムーズに生徒に対して実施できるようにする
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生全員をクラス単位で担任が中心となって指導し、本校周辺の状況についてD I Gを実施した。 ○各クラスを6グループに分け、学校周辺地図と5色のシール、実施要項のプリントを配付して、作業と話し合いをさせた。 ○最後に各グループの発表をさせて担任からのコメント、アンケート実施で終了した。
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○改めて学校周辺のこと分かり、災害時の注意点を確認できた。 ○自分たちで防災マップを作ると印象に残り、班員との絆も深まった。 ○初めてやったが、楽しかった。自分の家の近くのことこのようにやりたいと思った。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まじめに活発に進行しており、有意義な時間だった。 ○生徒の発表を聞き、こちらが改めて気づくこともあった。 ○班の人数が多くて参加が不十分な生徒もいたので、しっかり事前に考えさせて行うべきだった。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に職員対象の研修を行った。 ○地図やシール、話し合いシート、アンケートの準備を行った。
成 果	生徒のアンケートによれば、普段意識しない学校周辺の状況が分かり、災害時に気をつけるべきことも分かったということで、一定の成果があった。

<p>課 題</p>	<p>○分かりやすく、見やすい地図がなかなか手に入らないのが難点であった。 ○クラス単位の実施なので、担任の説明や指導力で生徒の理解度にクラス間の差が出たように思われる。 ○事前に職員向けの研修を実施したが、徹底は難しい。今後の課題である。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>生徒や教員の意見の中に、ICTを利活用すればもっと分かりやすく迅速に実施できるとあったので、今後はICT利活用を検討する。</p>

事例12 鎌倉養護学校

名 称	近隣の危険箇所を実際に見る災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○災害について知る。 ○避難方法を体験する。 ○近隣の危険箇所を知る。（D I G学習） ○災害時の生活と非常食について知り、非常食を食べる体験をする。
日時・場所	平成29年9月11日（月） 1－2教室、関谷川
実施教科等 （実施時間）	家庭科 （実施時間 1時間40分）
参加人数	自校生徒8名・教員3名
ファシリテーター	自校の教員
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○関谷川への下見と氾濫時の写真を準備 ○主な災害（地震・津波・火事・大雨洪水）の写真と災害時にとる行動の絵カードを用意 ○授業に沿ったワークシートを用意 ○非常食（乾パン・水）と紙コップを用意（期限切れ間近の非常食を利用）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の種類と避難の仕方を学び、実際に体験した。 ○近隣の危険箇所を知ること。 ○非常食を実際に食べることで、災害時の生活を体験した。 ○宿題として、家の近くの避難所を調べさせることで家庭でも防災について考える機会を設けた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【絵カードで学ぶ】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ワークシート】</p> </div> </div>
参加者の声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○乾パンが食べにくく、美味しくなかった。 ○大雨のときに、目の前の関谷川の水が道路の上まで来るのは、びっくりした。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が振り返りで、災害の名前や避難行動について思ったより答えられていて良かった。 ○今の生徒は、乾パンが思ったより食べられないことが分かって興味深かった。 ○近隣の関谷川が氾濫時にはかなり水位が上がるのが分かった。雨の時は川のそばを歩かないなど、通学路で実際に指導できて良かった。

工夫した点	<p>○生徒が分かりやすいように視覚的な教材を用意した。</p> <p>○生徒が飽きないように説明だけでなく、動いたり、食べたり、記入したりと活動を多く取り入れた。</p>
成 果	<p>ハザードマップにより学校周辺の危険地域を知ることができ、災害時の生徒の避難誘導に役立てることができる。</p>
課 題	<p>年に1度だけでなく何度か防災学習を行い、より身近な知識としていく必要がある。</p>
今後の展開	<p>地図がどれくらい読めるか実態を調べ、地図が読める生徒には地図に記入するD I G訓練を検討してみる。</p>





事例13 相模原養護学校

名 称	地域住民と一緒にを行う災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	○災害時の自助と共助に関する知識を身につけ、大災害に備える。 ○学校（主に特別支援学校）における災害時の配慮事項等について考え、大災害が起きたときに落ち着いて対応できるようにする。 ○災害図上訓練を通して地域の防災力を理解し、その中における学校の役割について考え、防災に対する意識を高める。
日時・場所	平成29年7月25日（火） 食堂
実施教科等（実施時間）	本校の公開研修会のひとつとして実施（実施時間 2時間）
参加人数	自校教員97名、保護者1名、原当麻自治会（他近隣自治会含む）7名、相模原市5名、座間市2名
ファシリテーター	自校の教員（防災安全班）
事前準備	○さがみはら防災マイスターとの研修内容、進行についての打合せ ○学校を中心とした周辺地図の作成と印刷 ○参加者のグルーピング 等
実施内容	○防災研修会（講師：さがみはら防災マイスター） （1）防災講座 大規模災害時の自助と共助に関する講座・学校における災害時の配慮事項等 （2）災害図上訓練D I G 地図を使って危険な場所などを確認し、地域の防災力を理解する図上訓練
参加者の主な声	【自治会】 ○自分の住んでいる地域や職場の周辺を細かく確認することの大切さを確認した。 【保護者】 ○家が学校に近いので、災害時に備えた周辺の様子を知ることができてよかった。 【教員】 ○災害時に必要な物やどのように行動したらよいかなど具体的に知ることができてよかった。 ○D I Gは学校近隣の様子が分かって勉強になった。
工夫した点	○地域に合ったより具体的なイメージを持てるよう地域の方である「さがみはら防災マイスター」に講師をお願いした。 ○近隣の方の特別支援学校や知的障害のある児童生徒への理解と災害時の共助につながるようグルーピングを行いD I Gの演習を行った。
成果	学校の立地がよく理解できた。川に挟まれて水害の被害が考えられる地域であることもよく分かった。
課題	保護者の参加がもっとあるとよかった。保護者向けの講座もあるとよいと思う。
今後の展開	D I Gだけでなく避難所運営ゲーム（HUG）も実施したい。

事例14 相模原中央支援学校

名 称	近隣校外を歩き危険・便利な場所を見つける災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	○近隣で災害時に危険な場所を知る。 （屋上広告のある場所、石垣、ガソリンスタンド等） ○近隣で災害時に便利な場所を知る。 （公園、消防署、学校、コンビニ等）
日時・場所	平成29年5月10日（水） 相模原中央支援学校周辺
実施教科等 （実施時間）	生活単元学習 （実施時間 1時間45分）
参加人数	自校生徒36名・教員13名
ファシリテーター	自校の教員
事前準備	災害時に便利な施設のヒント、シールを貼るための拡大地図を準備した。
実施内容	○事前学習で、災害時に危険な場所や役に立つ場所について話し合い、発表した。 ○近隣校外学習で、クラスごとにエリアを分けてA4版の地図を見ながら歩き、危険な場所・便利な場所を見つけてシールを貼った。 ○事後学習では、校外学習で使った地図を見ながら、掲示用の拡大地図にシールを貼って振り返りを行い、自分たちの注目した場所について報告し合い、共有した。
参加者の 主な声	【生徒】 ○学校周辺の便利な場所をみんなで確認できてよかった。 ○文字情報だけでなくイラストがあるともっと分かりやすかった。 【教員】 ○みんなで危険・便利な場所について共有できてよかった。 ○プリントの文字だけでなく、消火栓等、防災関係の標識などの画像データを事前学習で見せることで、もっと生徒にわかりやすく、探しやすい授業ができたと思う。
工夫した点	○災害時に役立つお店を見つけることをメインにして、授業をした。 ○施設の種別に色を付け、近隣校外学習の際に地図に直接貼り付けられるようにした。
成 果	地域の災害時に役立つ場所や危険な場所について確認することができた。
課 題	危険な場所、役立つ場所等の視覚的な資料を写真やイラストを使って提示すると、より意識して学習することができたのではないかと思われる。
今後の展開	本授業で教員、生徒で災害時の役立つ場所や危険な場所について共有できたことを生かし、校外に出るときの移動時にも教員から生徒たちに危険な場所や役立つ場所を見て確認するようにする。

■ 宿泊訓練 ■

名 称	宿泊防災訓練
日 時	平成29年 7月29日 (土) 17時30分から 平成29年 7月30日 (日) 9時30分まで
実施場所	訓練実施 体育館、体育館周辺スペース、教室 宿泊場所 教室
学習のねらい	○地震の発生に伴い一部生徒が帰宅できず本校で宿泊。 ○地域避難者も本校に避難するなかで、生徒が主体となって避難所を開設する。 ○その途中さまざまな出来事に対して適切に対応する。
主 催	学校主催 (地震)
参加人数	自校生徒19名 (ソフトボール部、女子バスケットボール部) ・ 教員10名、 保護者2名、見学者2名 (宿泊者：生徒19名、教員9名)
事前準備	6月 教育局総務室と調整 6月 分掌グループと打合せ 6月 関係部活動顧問と打合せ 7月 職員・保護者・PTAへ周知、通知 7月 訓練物資、必要備品等の準備開始
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><避難所自治組織の立ち上げ></p>  <p>【サブリーダーからの指示伝達】</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p><物資運搬></p>  <p>【水、食料、簡易ベット等を体育館に運び込み】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><避難所の整備></p>  <p>【体育館における避難所開設準備】</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p><避難者対応></p>  <p>【避難者に対する声掛け】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p><段ボールベッド作成></p>  <p>【各グループで作成】</p> <p><エコノミー症候群対策></p>  <p>【ストレッチ及びコアトレーニングの実施】</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><喫食訓練></p>  <p>【50食分のわかめごはん】</p> <p><ビデオ視聴></p>  <p>【内閣府作成ビデオの視聴】</p> </div> </div>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普段できない体験をして戸惑うことがいくつもあった。災害が起こった時は思っていた以上に大変で、日常生活から周囲に目を配っておくことが大切だと感じた。 ○初めてのことでばかりで、分からないこともあったが、みんなで考え合いながら行うことでスムーズにことが進むし、楽しんで参加することができた。 ○訓練に参加して実際に起こった時のような体験が出来、本当に起こったら何か役に立てるようにしたい。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○暑い時の宿泊の大変さを少し感じた。生徒ががんばっていた。段ボールベッドの組立てを見られて良かった。 ○防災用品はどんな物が用意してあるのか見学したい。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設の動きは、実際にやってみないと分からないので効果があったと思う。 ○生徒達にとっては通常の防災非難訓練ではできない貴重な体験になったと思う。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての取組みを、外部の団体や関係機関を使わず校内で対応した。 ○部活動の合宿と兼ねて実施した。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての試みとしては、充実した内容であった。 ○生徒にとっては貴重な体験ができ、実際の避難生活や緊急時の対応について学ぶことができた。 ○避難所開設における様々な課題を発見することができた。

<p>課 題</p>	<p>○宿泊する場合の生徒の健康面（熱中症その他）や安全面（体育館横が一般路）を考慮すると、多くの生徒を体育館に寝泊りさせるなどの避難を想定した宿泊は難しい。 ○予算の都合で購入できない物資があった。 ○体験しなかった生徒へ何らかの方法で報告をすべきだった。</p>
<p>ま と め</p>	<p>宿泊をするからこそできる訓練を検討した。生徒が帰宅できないような大地震発生で考えられることのひとつとして、地域住民が避難をしてくるのではないかと想定し、生徒が主体的に避難所を運営することを計画した。 実施にあたって、平塚市など関係機関による指導も考えたが、実際に大地震が起きた際に、市の担当者が来るまでに時間がかかることが予想されるので、すべて自前でやり、様々な課題を洗い出すことで、今後の対応の検討材料とした。 避難所開設にあたっては、PTAや本校職員などを避難者とし、様々な課題に対しては生徒自らが判断し、リーダー・サブリーダーのもと行動・解決できるようにした。 また、途中突発的な出来事を加え、できるだけ緊張感をもって対応するようにしたが、合宿中で夏の暑さもあり、生徒の体調を考慮し、一部内容をカットした。 今後の実施にあたっては、実施時期、訓練内容、訓練対象生徒など更に検討が必要である。</p>

2017.7.19

学校管理運営グループ

宿泊防災訓練の実施について（案）

今年度の学校防災において、生徒参画・体験型の実践的防災教育の一環として、学校で1泊2日の宿泊訓練を実施する。今年度6校（高校4・特別支援2）のモデル校が実施・検証を行なうことになり、本校はその該当校となった。

については、次の要領で宿泊防災訓練を実施し、検証をする。

期 日	平成29年7月29日（土）～7月30日（日） 1泊2日 集合：1日目 17：00 解散：2日目 9：00
訓練場所	体育館、体育館周辺スペース、一部校舎内
宿泊場所	教室
対 象	生徒（ソフトボール部、女子バスケットボール部）、教職員、保護者、地域住民
協 力	平塚市防災担当
内 容	避難所開設を想定したシミュレーション行動 地震発生にともない。一部生徒が帰宅できず本校で宿泊。地域避難者も本校に避難するなかで、生徒が主体となって、避難所を開設する。その途中、さまざまな出来事に対して適切に対応する ・避難者の把握（名簿づくり、避難者の健康状態の把握） ・避難所自治組織の立ち上げ ・被害状況の情報収集 ・炊き出し訓練 ・衣類・寝具等に関する状況把握 ・避難所の整備（パーテーション、トイレ等の製作） ・消火訓練（バケツリレー） ・その他

7月29日(土)





時間	職員	生徒	地域・保護者
17:00 17:30	集合・打合せ(職員室)	集合(荷物搬入・貴重品回収等) 趣旨説明、リーダーの選定	
18:00 18:30	訓練開始 状況の確認、地域・保護者 対応	訓練開始 避難者人数・健康状態把握 現有物資確認 避難所整備 喫食訓練	避難者として避難
19:30 19:45	ふり返し指導 突発的な出来事を指示 要救助者対応	ふり返し 突発的な出来事に対応	生徒の対応について 講評 解散
20:15 20:30	ふり返し指導 片付け指導	ふり返し 片付け	
21:00	就寝準備・見回り	就寝準備	

7月30日(日)

時間	職員	生徒	地域・保護者
5:30	集合・打合せ(職員室)	起床	
6:00	訓練開始 状況の確認	訓練開始 避難者人数・健康状態把握 炊き出し訓練	
7:30	ふり返し指導	ふり返し	
7:45	片付け指導	片付け	
8:00	見回り・解散	解散	

(余白)

事例16 深沢高等学校 (生徒主体 ・ 地域連携)

名 称	宿泊防災訓練
日 時	平成29年 8月10日 (木) 14時から 平成29年 8月11日 (金) 8時30分まで
実施場所	訓練実施 体育館、会議室、教室 宿泊場所 教室
学習のねらい	○災害時、自らの命を守る「自助」、助け合う「共助」の精神を養う。 ○生徒会本部役員・各部活動の部長のリーダー性を養い、緊急時に生徒自らが中心的存在として活動できるようにする。
主 催	学校主催 (地震)
参加人数	自校生徒34名 (生徒会本部役員 5名、部活動代表者29名) ・ 教員 5名、 保護者 5名 (宿泊者：生徒34名、教員 5名)
事前準備	6月 講演会講師・リーダーズ研修担当者に依頼 6月 講演会講師・リーダーズ研修担当者と打合せ 7月 保護者へ周知、通知 7月 宿泊に係る準備開始
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><講演会> 本校産業医による講話</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><リーダー研修> 専門家によるリーダー性を養う講演</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><リーダー研修> グループワーク</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><喫食体験> 生徒自らグループ分けをして作業を分担</p>  </div> </div>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○普段食べられない非常食も美味しかったので良かった。非常時に発電機は欠かせないと思った。 ○自分で思っていたよりずっと準備もスムーズに行えた。 ○この経験を生かせる時は来てほしくはないけれども、万が一の時は主体的に行動したい。 ○この体験を通して、災害について学べたので良かったと思う。宿泊訓練をやる前は何も知らなかったが、今はこの体験を活かしたいと思う。</p> <p>【保護者】 ○生徒は皆さん真剣に耳を傾け、配膳も協力しながらやっている姿が見られ良かった。 ○訓練には参加していないが、地域との連携に様々なことにおいて必要だと思う。 ○震災のことが色々知られて参加して良かった。</p> <p>【教員】 ○実際の体験は、やはり生徒たちには具体的（もしもの場合）なイメージをふくらませるのに効果的であったと思う。 ○実際、大型の地震等が発生した場合は宿泊せざるを得ないので、経験することは大切である。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○生徒自ら行動できるように、指示を与えすぎないようにした。 ○生徒自らが中心的存在として行動できるように、リーダー性の養成に特化した。 ○被災地で実際に医療活動をされている講師の方に話をさせていただくことで、直後の被災地の様子、そして現状の現場の様子を伝えることができた。</p>
<p>成 果</p>	<p>○リーダー研修 さまざまなプログラムが組まれたが、初めはうまくコミュニケーションが取れないでいた生徒たちも、次第に積極的に意見を言ったり行動したりできるようになった。 ○講演会 現実の厳しさや支援する際の注意点など学ぶことが多かった。 ○宿泊体験 実際に宿泊を経験することで、避難生活の具体的なイメージが持てたのではないか。 ○その他 今回の経験を通して自分の進路につなげて考えられた生徒もいて、今回の訓練がただの経験に終わらず、自分の将来を考えるきっかけになったことも収穫であった。</p>
<p>課 題</p>	<p>○リーダーズ研修はあと数回行うことでより実行力のあるものにできると思った。 ○地域の方の参加など、地域と連携をとることで広がりのある研修になると思ったが、それを安全で効果的なものにするにはどのようにプログラムを作るかが難しいと思う。 ○現場では職員が動く部分が多いと思うので、職員の参加者も工夫が必要。</p>

ま と め

本校生徒の特徴として、素直でいい生徒たちではあるが、リスクが伴うことを嫌い、自分が安心していられる環境を求める生徒が多く、自分が先頭に立ってグループを引っ張っていけるようなリーダー性をもっている生徒が少ない。

実際の災害の場面においては、高校生は集団のリーダーとして行動していかなければならない場面があると思う。そこで災害の場などでも、本校生徒がグループのリーダーとして行動できるように、リーダー力の養成を主眼に置いた。

そのため国際的な組織である「ユースリーダーズキャンプ」の運営に携わってきた西原さん、そのリーダーズキャンプを体験した「スポーツコーチングイニシアチブ」の小林さんに講師として来ていただき、さまざまなワークを体験した。

参加者の生徒からは、特に「コミュニケーションスキルを高めることができた」という感想が多かったように思う。西原さん、小林さんとも被災地に実際に入りボランティアの活動をしてきていることで、防災訓練になじんだ研修ができたと思う。

また、講演会の講師の酒井先生からは「避難できない多くの被災者」の話など、なかなかメディアには出ないリアルな現場の様子を聞くことができ、生徒たちは改めて自然災害の被害の大きさと、それにまつわる諸問題を知ることができた。

今回の研修を行うことで、普段はなかなか表に出ない、子どもたちの行動力や考える力を実感できてよかったと考えている。

内容的にはまだまだ検討の余地はあるが、継続的に良いものを作っていけたら効果はあるだろうと考えている。

平成 29 年度 神奈川県立深沢高等学校 宿泊防災訓練



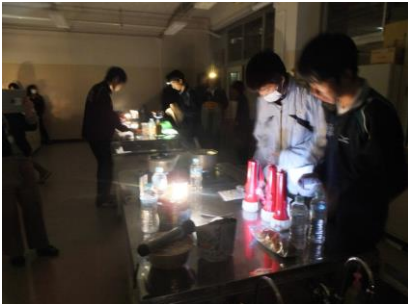
- 1 目的 ①災害時、自らの命を守る「自助」、助け合う「共助」の精神を養う
②生徒会本部役員・各部活動の部長のリーダー性を養い、緊急時に生徒自らが中心的存在として活動できるようにする。
- 2 実施日時 平成29年8月10日（木）14:00～ 8月11日（金）8:30
- 3 使用施設 深沢高校 体育館、教室等
- 4 対象生徒 生徒会本部役員（7名） 部活動代表者2名（40名） 計47名予定
- 5 担当教員 学校管理運営グループ職員 部活動顧問
- 6 連携機関 鎌倉市警察、鎌倉市消防 ほか
- 7 訓練内容 講演（防災ほか）・体験実習・喫食体験・宿泊
- 8 時 程
 - 8月10日（木）
 - 14:00 体育着に着替えて体育館集合 全体説明
 - 14:30 防災体験実習（ブース形式のローテーション予定）
 - 15:30 リーダー研修（別紙計画） 講師 スポーツコーチング 仁志チヲ 代表 小林忠広さん
 - 17:30 仮設避難所開設準備（照明・受付等の準備） 生徒分担①
 - 18:00 避難者（PTA）受け入れ 防災備蓄食糧で夕食準備 生徒分担②
就寝用のゴザ・毛布等を教室へ移動 生徒分担③
 - 19:00 各HR で喫食体験（アルファ米・飲料水）
 - 20:10 講演会（PTA保護者も参加） 講師 本校産業医 酒井太郎先生
 - 21:10 講演会終了 保護者解散
 - 21:20 振り返り
 - 22:00 就寝準備
 - 22:30 消灯
 - 8月11日（金）6:00 起床
 - 6:15 ゴザ・毛布等の回収
 - 7:00 喫食体験（災害備蓄用パン・飲料水）
 - 7:30 ごみの回収 制服に着替える
 - 8:00 宿泊訓練全体の振り返り
 - 8:40 生徒解散



開始時刻	終了時刻	予定時間	予定分数	タイトル	内容	備考
事前準備 深田先生側の要求分析: 誰も引つ張らない学校、防災ワークショップを成功させたい オーガナイザー側の意図: 防災ワークショップの導入として、学生を意識付けたい 実際の震災時は誰もが委縮をする。その際に肯定的な体験を持って名乗り出るようになってほしい						
当日準備 ホワイトボードペーパー 8枚 A4の紙 180枚 A3封筒 8枚 プロジェクター						
開始時刻 16時00分 終了時刻 18時00分 予定 120分						
16:00	16:10	0:10	10分	1 自己紹介	・オーガナイザー自己紹介 ・参加者2人一組で、今日の期待を共有する	届けたい規範のInput ・挨拶 ・「自主性」と「主体性」の違い(ペアワーク)
16:10	16:25	0:15	15分	2 全員参加型ワークショップ	言葉を使わずに誕生日順に円になる	自主的に行動して終わってないか? 主体的に人を助けに行ってないか? 似て非なるものだけど、全然違う
16:25	16:40	0:15	15分	3 ペーパーパワーワークショップ	高いペーパーパワーをいかに作るか	コミュニケーションの大切さのinputと場作り 20枚のA4用紙を封筒に入れて用意
16:40	16:50	0:10	10分	4 リーダーとリーダーシップの違い	リーダーとリーダーシップの違い	ペアワーク
16:50	17:00	0:10	10分	5 インスピレーショントーク	マリオさん、震災時の大川小の話	既存のリーダー(先生や大人)が必ずしも正しいとは限らない
17:00	17:20	0:20	20分	6 どんなリーダーシップが必要か	リーダーシップを考える	5つの要素を模造紙に書いてもらう
17:20	17:35	0:15	15分	7 各チーム発表	模造紙で発表	
17:35	17:40	0:05	5分	8 フィードバック	How to start a movement	https://www.ted.com/talks/derek_sivers_how_to_start_a_movement
17:40	17:50	0:10	10分	9 チェックアウト	この後のワークで意識しようと思うことを一言ずつ	

計 110分 100%

(余白)

事例17 西湘高等学校 (生徒主体・地域連携)

名 称	宿泊防災訓練
日 時	平成29年11月17日(金) 16時30分から 平成29年11月18日(土) 8時30分まで
実施場所	訓練実施 本校選択B2教室、調理室、防災倉庫 宿泊場所 選択B2教室、選択B3教室
学習のねらい	○東日本大震災の事例を基にした講演を聞き、災害が起きた時の活動やそれに備えた日頃の準備について学習する。 ○ワークショップ(クロスロード)に参加し、有事の際の意思決定や心構えを学ぶ。 ○避難所生活の体験をし、実際に起こった際に避難所の活動に積極的に参加できる人材を育成する。
主 催	学校主催(地震)
参加団体	株式会社富士ゼロックス復興推進室
参加人数	自校生徒22名(防災委員、生徒会本部役員、一般生徒)・教員4名 (宿泊者:生徒22名、教員4名)
事前準備	9月 富士ゼロックス復興推進室と調整 10月 富士ゼロックス復興推進室と打合せ 10月 生徒保護者へ通知、参加者募集 11月 参加生徒への事前指導 11月 毛布・食料等準備
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><防災講話></p>  <p>【富士ゼロックス復興推進室 樋口氏による防災関連講話】</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><ワークショップ></p>  <p>【クロスロードを実施】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><防災物品の点検訓練></p> <p>校舎内備蓄倉庫・敷地内備蓄倉庫の場所や内容を確認</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><食料喫食訓練></p>  <p>【ランタン・懐中電灯の下で湯沸かし・アルファ米・乾燥スープ等調理】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<p><避難所宿泊体験></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【段ボールベッドの組立て】 【宿泊場所】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明が分かりやすく、いざ災害が発生したときにどうになってしまうのか、そしてその時どのように行動すべきかが今回の講話で知ることができた。 ○クロスロードがとてもありアルで、実際に起きた時と近い体験ができた。様々な意見もあり、多様な物の見方ができて面白かった。 ○普段当たり前にできることができなくて辛かった。 ○照明がないと、とても不便だった。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講演・ワークショップ・避難所体験は効果的であったが、事前準備・運営は負担が大きかった。人的な支援が欲しい。 ○本校は避難所に指定はされていない。実際に災害が起きた時、高校生は遠方からも通学しており、居住地域で同年代だけでなく様々な人と避難所生活を送ることになる。学校での宿泊訓練ではなく、生徒が地域の訓練に参加できる方法は考えられないか。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○寒い時期になったので宿泊は教室で行い、支給された毛布だけでなく武道場の畳を使用するなど防寒に留意した。 ○普段生徒は防災備蓄品については知る機会がないので、今回の訓練の中に防災倉庫の確認を入れた。 ○喫食訓練や避難所設営の際は停電になっているという想定で、ランタンや懐中電灯の下で行った。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○講話・ワークショップにより、災害発生時の行動や平時の対策等に関する生徒の理解が深まった。 ○防災訓練（防災倉庫の確認）では、場所・内容等を知ることができた。 ○喫食訓練・宿泊訓練を通じて、避難所生活を体験し理解することができた。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○事前準備・運営の負担軽減 ○成果の他の生徒への普及
<p>ま と め</p>	<p>講話・ワークショップは、講師が上手だったこともあり生徒も活発に発言し、大震災の実態や災害発生時の行動、平時の対策等に関する生徒の理解も大きかった。</p> <p>防災訓練（防災倉庫の確認）は、生徒も知らなかった部分が多く、有効であった。今後他の生徒にも防災倉庫について周知する必要性を感じた。</p> <p>宿泊訓練は、今回時期的に教室を使用し、支給された毛布だけでは寒いので武道場の畳を使用し、生徒にも寝袋や防寒着を持参させたが、それでも寒いという生徒はいた。</p> <p>実際に災害が発生する季節は真夏や真冬もあり得るので、生徒の健康維持に留意しながらも、今回の状況はいい体験にはなったと思う。</p> <p>本校は地域の避難所には指定されておらず、誤解を避けるため地域への連絡はしなかった。</p>

平成 29 年度 宿泊訓練実施要項（改訂）

- 1 目的：大地震等による避難所生活の体験をし、実際に起こった際に避難所の活動に積極的に参加できる人材を育成する。
- 2 日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）16:30 ～ 18 日（土）8:30
- 3 使用施設：選択 B2 教室、選択 B3 教室、調理室
- 4 参加生徒：防災委員、生徒会本部役員、一般生徒 22 名
- 5 担当教員：校長、教頭、学校管理運営グループ 2 名
- 6 連携機関：富士ゼロックス株式会社 復興推進室
- 7 訓練内容：防災関連講話・ワークショップ、避難所宿泊体験、非常食喫食体験
- 8 時程：17 日（金）
 - 16:10 講師来校
 - 16:30 選択 B2 教室集合（制服着用）
 - 16:40 防災関連講話 講師：富士ゼロックス株式会社 復興支援室 樋口邦史氏
 - 17:10 ワークショップ（クロスロード）18:30 終了予定
 - 18:30 講師見送り、更衣（女子は更衣室）、毛布運搬（A 棟 1 階より）
ランタン・懐中電灯準備、調理室へ移動
 - 19:00 非常食の調理・喫食体験
（照明はランタンと懐中電灯、湯を沸かしアルファ米と乾燥スープを食す）
 - 19:45 防災訓練（防災倉庫の場所・防災物品の確認）
 - 20:15 避難所体験 武道場より畳を運び、避難所を設営。段ボールベッドの組立。
寝具は毛布 2 枚。新聞紙も防寒用に準備。
 - 21:30 就寝準備 清掃・洗面等
自由時間（注意：校舎外に出ない。自販機不可）
 - 22:00 消灯
- 18 日（土）
 - 6:00 起床
 - 6:20 非常食の調理・喫食体験
 - 7:05 畳を武道場に返却、清掃、制服に更衣
 - 7:45 振り返り（アンケート、感想文）
 - 8:30 解散、毛布返却（A 棟 1 階）
- 9 生徒持ち物：体育着または私服、洗面具等、補助食料、防寒着
- 10 宿泊場所：男子生徒・男性職員は選択 B2 教室、女子生徒・女性職員は選択 B3 教室
- 11 事前準備：選択教室・調理室の確認、生徒アレルギーの調査、振り返りシートの作成、PC、
プロジェクター、スクリーン、ドラム、救急箱、ゴミ袋、ランタン、懐中電灯、電池、
新聞紙、マスク、簡易カイロ、アルファ米（1 人 2 袋）、水（1 人 500ml × 3 本）
機械警備確認

(余白)

事例18 大和西高等学校 (生徒主体 ・ 地域連携)

名 称	宿泊防災訓練
日 時	平成29年 7月27日 (木) 16時から 平成29年 7月28日 (金) 8時40分まで
実施場所	訓練実施 体育館、グラウンド 宿泊場所 教室
学習のねらい	○生徒の防災意識を高める。 ○生徒の社会貢献への意識を醸成する。 ○訓練を通じて地域との連携を強化する。
主 催	学校主催 (地震)
参加団体	西北自治会、大和市消防署、大和市役所
参加人数	自校生徒 50名 (バレーボール部、野球部、生徒会本部役員) ・ 教員20名 西北自治会 10名、大和市消防署 10名 (宿泊者：生徒40名、教員5名)
事前準備	5月 県担当者と調整 6月 大和市危機管理課と打合せ 6月 対象生徒、周辺自治会へ周知、通知 7月 宿泊訓練の準備開始
実施内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><消化体験> 消火器による消火</p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p><起震車体験> 震度7を体験</p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p><救急救命体験> 高齢者擬似体験</p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p><喫食体験> α米を喫食する</p>  </div> </div>

<p>実施内容</p>	<p><避難所体験> 段ボールベッドの組立て</p>  <p><講演会> 本校教諭による東日本大震災の体験談</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普段の生活とは違って、不自由なことがたくさんあって体力的にも精神的にも辛かった。でも、このような体験をしたのは人生ではじめてのことだったので、とても貴重な体験になりました。 ○実際に起震車で体験してみてもすごく怖かったので、本当に起こったらすぐ反応できるようにしたい。 ○震度7があんなに揺れが激しいと思わなかったので、びっくりした。今日の体験を生かして災害が起こったときは、少しでも自分から動けるようにしたい。 ○今回訓練に参加してみて食料の確保が何よりも大切だと思った。日ごろから非常食は準備しておきたいと思った。 <p>【地域の方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災を実際に体験されたお話を聞く機会があり、とても考えさせられる講演会となったと思う。 ○今回の体験談は貴重な話だった。テレビの映像に比べてより危険な状況を知った。備えすぎることはない。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治会の方々と生徒たちの触れ合いが喫食体験や自治会の方の体験を聞くことなどを通じて深まり、連携にも効果があったと思う。 ○当事者意識や災害イメージネーション能力の育成・向上につながる。（生徒も職員も地域住民も）
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○起震車体験や災害弱者疑似体験を取り入れるなど、なるべく実践的な訓練とする。 ○実際に東日本大震災を体験した人の体験談を聞き、災害について考える。 ○喫食体験などの触れ合いを通じて、地域の方と連携するきっかけづくりをする。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体験実習 <ul style="list-style-type: none"> ・普段体験できないことを実際に体験することで、生徒たちの防災意識を高めることができた。 ・起震車体験では身をもって地震の恐ろしさを体験し、シェイクアウトの大切さを確認した。 ・高齢者疑似体験では、災害弱者となる高齢者や障害のある方々に災害時にどのように接したらよいかについて考えるきっかけになった。 ・災害時には高校生の力を特に役立てていかなければならないという意識を持つことができた。 ○防災講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で被災した本校教諭の講演は、東日本大震災の体験に基づいており、聞く者の心に直接訴えかけるものであった。 ・参加していた自治会の方々からも「とても考えさせられる内容だった」との声を多くいただいた。 ・生徒にとっても、命を守ることの大切さを考える機会となった。 ○喫食体験 <ul style="list-style-type: none"> ・初めてアルファ米を食べる生徒もおり、災害時のための備蓄の大切さについて考える機会となった。

課 題	<p>○今後も、地域との連携を深めていく必要がある。本校近隣には、小学校・中学校もあるため、地域の防災訓練に参加するなど、地域・学校が連携していけるようにしたい。</p> <p>○今回参加した生徒たちだけではなく、全校生徒対象に実践的な防災体験実習を実施し、防災意識を高めていくことが大切である。</p>
ま と め	<p>今回の訓練の目的は、生徒の防災意識を高めること、また、生徒の社会貢献への意識を高め、地域社会と連携していくことであったが、今回のことをきっかけにして、大きく前進させることができたと思う。</p> <p>大和市役所・大和消防署の協力を得て行った、起震車体験・消火器訓練、また、車椅子や高齢者体験キットを使っての災害弱者体験などは、参加した生徒にとって実践的な内容で、災害について考える大きな体験となった。</p> <p>また、東日本大震災を体験した本校教諭による講演は、生徒や自治会の方々に、強烈な印象を与え、日ごろから災害について考え備えることの大切さを再認識させた。</p> <p>今回参加した生徒だけでなく、全校生徒対象に実践的な防災体験実習を行うこと、地域との連携をさらに深めることが今後の課題である。</p>

平成 29 年度 大和西高等学校宿泊防災訓練実施要項

- 1 目的 生徒の防災意識を高める
生徒の社会貢献への意識を醸成する。
訓練を通じて地域との連携を強化する。
- 2 実施日時
平成 29 年 7 月 27 日 (木) 16:00 ~ 平成 29 年 7 月 28 日 (金) 8:40
- 3 使用施設 大和西高等学校 体育館 第二体育室 グラウンド 教室棟
- 4 対象生徒 男子バレーボール部・(野球部)・生徒会本部役委員
(参加人数 50 名・宿泊 40 名)
- 5 担当教員 バレーボール顧問 野球部顧問 管理運営グループ(宿泊 3 名)
- 6 連携機関 西北自治会・大和市消防署・大和市役所
- 7 訓練内容 宿泊体験・非常食の喫食体験・防災講話
- 8 時程
 - 7月27日(木) 16:00 集合
 - 16:30 防災体験実習〔場所：体育館・グラウンドなど〕
 - 18:00 防災体験実習終了
生徒は就寝用の畳・毛布等・自らの荷物を教室〔3E・4E〕に運ぶ
 - 19:00 貴重品を持って会議室に移動
非常食の調理・喫食体験(アルファ米・飲料水)
 - 19:50 防災講演会(佐々木ひとみ教諭他)〔場所：会議室〕
 - 20:40 講演会終了
 - 21:00 就寝準備 清掃・洗面等
 - 22:00 消灯
 - 7月28日(金) 6:00 起床
 - 6:15 畳・毛布の等の回収
 - 7:00 喫食体験(災害用備蓄パン・飲料水)
 - 7:30 ごみ回収 練習着等に替える
 - 8:00 宿泊訓練を振り返って(感想文やアンケート)
〔場所：会議室〕
 - 8:30 生徒解散

防災体験実習メニュー (16:30~18:00)	
晴天時 実習場所・グラウンド	雨天時 実習場所・体育館
起震車による地震体験	救急救命体験(高齢者体験訓練)
水消火器による初期消火体験	救急救命体験(搬送訓練)
救急救命体験(搬送、応急処置訓練)	災害時伝言ダイヤル体験、無線体験

生徒たちは3班に分かれ、 ~ を順番に25分ずつ体験を行う。

事例19 津久井高等学校（定時制）（**生徒主体**、地域連携）

名 称	宿泊防災訓練
日 時	平成29年7月14日（金） 19時15分から 平成29年7月15日（土） 10時まで
実施場所	訓練実施 視聴覚室、教室 宿泊場所 教室、保健室
学習のねらい	夜間における大規模地震、台風などの災害発生時に帰宅困難となった場合を想定し、生徒、教職員が適切な対応をとるための訓練を実施し、防災意識を高めるとともに、互いに助け合い、命を大切にする意識を育む。
主 催	学校主催（地震）
参加人数	自校生徒39名・教員15名、近隣住民3人、NPO法人災害ボランティア団体5人 （宿泊者：生徒（1年生）2名、教員15名、NPO法人災害ボランティア団体2名）
事前準備	5月 校内調整 6月 総務室と打合せ 災害ボランティアネットワークと打合せ 生徒、保護者、近隣住民等へ周知、通知 7月 宿泊、喫食等の準備開始
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><防災学習> 災害ボランティアネットワークによる講演</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><停電を想定した訓練> 災害時から72時間を想定したイメージトレーニング</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><炊き出し訓練> ビニールを使った米の炊き方</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><喫食訓練> アルファ米等の炊き出しと喫食</p>  </div> </div>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○普段なら体験できない貴重な体験をさせてもらった。今日、学んだ事を災害が起きた時に使えるようにしたい。 ○講話やワークショップで、自分だったらどうするかとかを改めて考えることができたので、とても役にたったと思う。</p> <p>【地域の方】 ○地震速報が出てから自分自身が何をしたらよいのか。どんなものが必要なのか。また、どれくらい必要になるのかをとて理解できた。 ○訓練で体験したお米をつくる防災グッズはとてもすばらしいなと思った。懐中電灯にペットボトルを置いてあかりを照らすのは実際に行うことができる災害知識なので、覚えておこうと思った。 ○常に日頃から地震や火災といった災害を予測し、行動するのは難しいが、自分がその中で出来ること（自分の安全や家族の安全確認等）をして生き延びていけなくちゃいけないという大切さがこの訓練を通して更にそう思った。</p> <p>【教員】 ○自ら防災に関して考えることができ、非常に効果は高かったように思う。 ○ワークショップへの参加、炊き出しの体験などは目に見えてすぐにというわけではないが、将来的に確実に効果をもたらすものとする。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○訓練の運営が円滑に進むように、前年度に実施の決定を行った。 ○専門的な知識や技能を学び、臨場感のある体験活動を行うため、外部から講師を招き宿泊もしていただいた。 ○災害発生時の実践力を高めるため、原則として全教職員が宿泊することとした。</p>
<p>成 果</p>	<p>○実施に当たって、事前に備蓄品等の確認を行うことにより、備えについて再整備を行うことができた。 ○夜間定時制として、必要な想定に基づく防災訓練を行うことができた。 ○実際に宿泊を行うことにより、臨場感のある体験活動を行うことができた。 ○外部から専門的な講師を招き、実践的な講演やワークショップが実施でき、生徒・教職員の防災意識を高め、互いに助け合い、命を大切にする意識を育む一助となった。</p>
<p>課 題</p>	<p>○生徒数の減少及び実施時期の生徒の出席状況により、宿泊生徒数が当初予定していた人数より少なくなってしまった。 ○今回が2年目の行事で、生徒・教職員が一丸となる効果的な訓練を模索中である。 ○電気・水道等のライフラインが全て使用できない設定で訓練を行うことも考えられるが、生徒の健康面を考えると難しいと思われる。</p>
<p>ま と め</p>	<p>夜間定時制高校である本校は、生徒の最終下校時刻が21時25分に設定されており、災害発生時には様々な困難が想定される。例えば、停電すると暗闇の中を避難することになり、生徒の安否確認も容易なことではない。また、生徒の帰宅が困難になる事態も予想される。</p> <p>そこで、本校では2年前から宿泊避難訓練を実施している。今年度は総務室と連携し、外部から専門的な講師を招いて講演やワークショップを行い、生徒・教職員の防災意識を高めることができた。また、実際に学校に宿泊することにより、臨場感のある体験活動を行った。</p> <p>今回で2回目の行事であり、効果的な訓練を模索中であるが、今後も地域との連携を更に深めるなど、一層の改善を行い訓練を継続していきたいと考えている。</p>

平成29年度
2017 津久井高校定時制

宿泊避難訓練



7/14(金)~7/15(土)

生徒用



1. 目的

夜間における大規模地震、台風などの災害発生時に帰宅困難となった場合を想定し、生徒、教職員が適切な対応をとるための訓練を実施して防災意識を高めるとともに、互いに助け合い、命を大切にする意識を育む。

2. 実施期間

平成28年7月14日(金)18時00分 ~ 15日(土)10時00分

3. 参加者

- ・生徒 1学年生徒(男子4名、女子4名)
- ・職員 校長、副校長、教頭、定時制教諭、定時制養護教諭、災害ボランティアネットワーク(4名)

4. 環境設定
(状況の設定)

別紙参照
今回は実施レベル⑧(実施レベル一覧表参照)


5. 生徒班分け
(講習等の活動)

A班		B班		C班(上級生)		D班(上級生)	
● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● ● ●	● ● ●	● ● ●		● ● ●	● ● ●	● ● ●	
※ ● ●				● ● ●	● ● ●		

※宿泊なし

上級生は宿泊しません
上級生はもう少し増える予定

6. 日程

1日目	主担当	2日目	主担当
登校		6:00 起床	2名
17:10 漢字コンクール	管理G	点呼・体調確認	3名
18:00 全校での防災避難訓練 防災学習(自家発電機研修)	1名	朝食	2名
18:45 2学年～4学年は放課		片付け	全員
夕食		7:30 方面別帰宅訓練	11. 参照
19:15 (2B教室にて) 災害ボランティアネットワークの方々による ワークショップ(上級生参加可能)	2名	8:30 参加者の安否確認 (家庭から学校へ電話)	3名
21:30 宿泊に関する準備	3名		
22:00 就寝			

8. 災害ボランティア
ネットワーク・ワークショップ

- ・災害時から72時間を想定したイメージトレーニング
- ・防災用具の組み立てや使用方法の講習
 - ・非常用簡易トイレを組立てる(班ごと)
 - ・ダンボール式組立てベッドの組立て(全体で2台)
 - ・ビニールを使った災害時の米の炊き方

※災害防災ネットワークの指導のもと行うため、内容の変更もあります。

9. 宿泊場所

2A教室 男子生徒4名	4年教室 女子生徒3名	3B教室 災害ボランティアネットワーク2名
2B教室(本部) 男子教員	保健室 1名	その他 1・3号館 管理職・男子教員

9. 寝具

アウトドア用マットもしくはアルミロールマットを敷物とし、毛布を被る。
仕切りのつい立てについては、寝場所の準備をする中で一番いい形を考えて設置する。

10. 安否確認方法

実施レベル⑧なので、各自で帰宅する。
帰宅したら必ず学校に電話で報告する。全員の報告が確認できたと所で訓練終了とする。
保護者が迎えに来た場合は電話の必要はない。
各自で帰る場合は、同じ方面の生徒と一緒に帰宅する。帰宅した後に必ず学校に連絡する。

11. 方面別帰宅
班分け

班	方面	クラス	氏名	出身中学	方面指導教員
2班	青山・根小屋	1A	●●●●	串川	1名
3班	中野・太井	1A	●●●●	中野	1名
4班	寸沢嵐・与瀬	1B	●●●●	藤野	1名
6班	二本松・下九沢・大島	1B	●●●●	内出	2名
7班	橋本	1B	●●●●	相原	2名
9班	相模原	1A	●●●●	清新	1名
10班	愛川	1A	●●●●	四条	1名

12. 注意事項

立入り禁止場所 について	<ul style="list-style-type: none"> ・1号館1、2階以外は立入り禁止とする。特に校舎外は事故をまねきやすく危険。 ・全日制の使用場所には通常と同じく立ち入らない。物品の管理上のトラブルとなりがち。 ・宿泊訓練の目的を忘れないようにする。
トイレ 水道場	<ul style="list-style-type: none"> ・男子は2階西側、女子は2階東側を使用する。 ・それぞれの洗面所の水道を使用する。朝は近くの水道場を使ってもよい。
持ち物について	<ul style="list-style-type: none"> ・不必要な高額なお金は持ってこないこと。訓練そのものに生徒側が払うお金は一切ありません。 ・簡単な洗面具はあったほうが良い。(歯ブラシとタオルなど) ・寝るときは動きやすく気にならない衣類が良い。(ジャージやTシャツなどは適切)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とはいつでも連絡がとれるように確認しておくこと。 ・自分の身体の具合については気を配るようにし、もし途中で具合が悪くなった場合はすぐに申し出ること。 ・特別な事情がある場合は担任または他の先生に申し出ること。





13. 防災用品の
使用法講習


- ①職員がボンベ式ガスコンロでお湯をわかし、そのお湯でアルファ米に注湯し、試食する。
- ②非常用簡易トイレとダンボール式ベッドを組み立てる。トイレは各班で、ベッドは全体で2台とする。
出来上がったところで利用のリハーサルを行い、説明を聞き確認をする。
終了したら解体し、今後の使用が可能な状態にしておく。

メモ

(余白)

事例20 鶴見養護学校 (児童生徒主体 ・ 地域主体)

名 称	つるみ防災キャンプ2017
日 時	平成29年9月1日(金) 16時から 平成29年9月2日(土) 8時15分まで
実施場所	訓練実施 体育館、特別教室 宿泊場所 体育館
学習のねらい	○避難所経験や防災に関する展示を通し、児童生徒、保護者の防災意識を高める。 ○避難所の設営・運営を通じて、教職員の運営力を高めると同時に運営方策の検証・整備を図る。 ○地域と連携して実施することで情報共有を図る。
主 催	学校主催(地震)
参加人数	自校児童生徒21名・教職員28名、保護者25名、近隣住民24名、消防、NPO法人防災ボランティア団体、協力企業の関係者、本校評議員など21名 合計119名 (宿泊者：児童生徒8名、教職員20名、保護者12名、NPO法人防災ボランティア団体・協力企業の関係者、本校評議員など8名)
事前準備	4月 企画案作成 5月・6月 参加団体への協力依頼、参加依頼 7月・8月 駒岡消防出張所など協力機関との打合せ
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><防災講座> 消防出張所長による講座</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p><子どもアクティビティ> 防災ランタンの制作</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><非常食体験> 参加者が協力してカレーの炊き出しと喫食</p>  <p>【保管食材での簡易調理】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【食料喫食訓練】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<p><避難所体験訓練> 体育館で就寝準備</p>  <p>【段ボールベッド作り】</p> <p>【パーソナルスペース作り】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【地域の方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○初めて避難所を体験した。予想以上にダンボールベッドがよくできていたり、あかり(LEDのもの)が危なくなかったり、個人で防災用品をそろえるのにも大変役に立った。 ○学校だけでなく、外部の方が一緒にやっているのが良いと思った。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供は夕方になると暗くていつもと違う雰囲気戸惑っているようだった。本当の災害時には更に違う雰囲気で戸惑いも大きいと思うので、少しでも経験できて良かった。 ○電灯がない体育館での夜の体験は良かった。 ○昨年も親子で参加、今年は子どもから「ぼうさいいく」(防災キャンプに行く)。子どもが興味を持って参加できたので良かった。 ○もう少し窮屈さや不便さを感じられる方が良い。 ○消防の方のお話、ビデオは気づかされるのがたくさんあり、とても勉強になった。 ○「避難者はお客さんではない」という言葉が印象的だった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育館等での宿泊を経験しておくことで実際の避難所でより落ちついて過ごせると思う。 ○生徒にとって良い経験になったと思うが、特に保護者や職員にとっても貴重な経験で大きな効果があった。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害は過ごしやすい時期に起きるとは限らないので、防災の日に合わせて、あえて気温が高い季節に実施した。 ○電気無し生活を体験するために、停電した想定で実施した。参加者の健康状態の把握や避暑部屋、保冷剤の十分な用意など熱中症対策も万全とした。 ○参加者や教員が自由に記入できるボードを設置して、意見集約に努めた。 ○分教室生徒に運営スタッフとして参加してもらうことにより、避難所運営に生徒が主体的に関わる経験を積めるようにした。 ○ランタン作りの体験を用意したり、夕食に炊き出しで作ったカレーを提供したりすることにより、障害のある児童生徒に避難所生活が困難なことばかりではないことを印象づけた。 ○児童生徒の体験教室、段ボールベッド・パーソナルスペースの製作でNPO法人や企業など外部資源を活用した。 ○本校近くの福祉事業所に参加を呼びかけ、地域連携を図った。

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に宿泊を伴う避難所運営を経験することで、設営や運営の知見を蓄積することができた。 ○参加者が自由に記入できるボードを設置したことで、その場で感じた意見やひらめいたアイデアを集めることができた。 ○分教室生徒に運営スタッフボランティアとして参加してもらったり、手の空いた参加者等に集ってもらい、役割を割り振ったりすることで、参加者の中にも避難所運営に主体的に取り組んでくれる人が増えた。 ○ランタン作りや夕食のカレーなど、児童生徒が楽しめる要素を用意したことで避難所生活が困難なことばかりではないことを印象づけられた。 ○児童生徒の体験教室、段ボールベッド・パーソナルスペースの製作でNPO法人や企業など外部資源を活用したことで、児童生徒の活動の幅が広がったこと、段ボールを無償供与されたことで経費削減につながったこと、ネットワークができたこと、本校職員の負担が軽減されたこと、といった利点があった。 ○本校近くの福祉事業所に参加を呼びかけ、参加してもらったことで、近隣住民で地域の避難所に行きにくい障害のある人たちとその家族に安心感を持ってもらうことができた。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の体育館は冷房設備がないので、暑い季節に実際に避難所を開設した際には、熱中症や蚊による被害を抑えることが課題である。 ○参加者は一部、運営に主体的に関わってくれることもあるが、「お客さん」の立場に終始することもある。その参加者なりの運営への主体性を引き出すことが課題である。 ○今回は協力企業の厚意で段ボールベッドの費用が大幅に節約できたが、うまく協力が得られない場合は費用がかかり、訓練実施に影響が出ることが考えられる。協力を得ることと費用の工面が課題である。 ○実際に本校が避難所になった場合、外部の避難者をどこまで受け入れることができるかが課題である。
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今回、本校は県立特別支援学校としては初めて宿泊避難訓練を実施した。中心となって実施した教員集団は、「やることに意味があった」と考える。実施したことで様々なノウハウが蓄積し、それが万への備えになるからである。 ○実施にあたっては、その教員集団でも不安があった。その不安を払拭するために、次のことを心掛けた。 <ul style="list-style-type: none"> その1) 初回なので小規模で始める。そのために、参加者も協力する教員も希望者とした。 その2) ねらいを根本的なねらいに限定する。今回は「まず体験すること。その中からわかるノウハウや意見を集めること」とした。 その3) 準備は万全でなくて良い。むしろ実施する中で「何が足りないのかを知る」ことも大切と考えた方が良い。 ○宿泊学習ではないので、準備万端の楽しく充実した宿泊避難訓練を目指す必要はない。実際、準備や訓練を実施する中で、「準備不足」「段取りが悪い」という指摘もあった。しかし、では何を準備しておくべきであったか、どんな段取りにすれば良いか、それこそがこの宿泊避難訓練で集めるべきノウハウなのである。 ○どんなにノウハウや資材が準備されても、非常時に本校が避難所となれば、避難者も運営側からも不安や不満が出るだろう。しかし、その状況で一刻も早く安心感を生み出すために平常時の今できることは、懸念事項を口実にせずに訓練の最初の一步を踏み出すことであると考え。最初の一步を踏み出した本校は、今後も地道に一步ずつ歩み続けることが大切である。

平成29年度 鶴見養護学校 避難所体験「つるみ防災キャンプ」実施計画

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所経験や防災に関する展示を通し、児童生徒、保護者の防災意識を高める。 ・ 避難所の設営・運営を通じて、教職員の運営力を高めると同時に運営方策の検証・整備を図る。 ・ 地域と連携して実施することで情報共有を図る。 |
| 2 | 日 時 | 平成29年9月1日（金） 16:00 ～ 2日（土） 8:15【児童生徒、保護者の参加時間】 |
| 3 | 内 容 | <p>体育館での避難所体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震災害を想定。本校職員が体育館に避難所を設営し、16:00から翌朝8:15までの時間帯に参加者（事前申込制）が本校での避難所の体験をする。出入り自由。 ・ 体育館内では、段ボールハウス作り、非常食試食や救援物資の簡易調理、備蓄用品の展示、災害時の対応パネル展示、災害用伝言ダイヤル体験を実施する。 ・ 災害の知識を学ぶための講演、クラフト活動など。 <p><想定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模震災があった暑い日の夜を過ごす、という想定。 ・ 震災初日なので、電気・ガスは使えない。（教室内のエアコンのみ、使用可。） ・ ライトは懐中電灯、ランタンのみ。（全員分はない） ・ 水道は使えるので、トイレは通常どおり使用可。 ・ 食事は給食食材残りでのカレーと備蓄の非常食、配給された調理パンのみ。飲み物は常温のペットボトル入りの水が豊富にある。 ・ 寝床は、大半の方は段ボール・シュラフ・毛布を重ねて敷き布団とし、毛布を掛ける。その他、体育館のマットや段ボールベッドに毛布を掛ける場合もあり。 ・ 本校は公式に避難所の指定を受けていないため、物資も環境も人的資源も限られている。教員が全て事前に準備するのではなく、参加する児童生徒・保護者・地域住民・教員が、不自由・不便な思いをしながら、お互いに助け合い、協力し合い、知恵を出し合って、少しでも快適に過ごせるような避難所運営をみんなで行っていくという想定。 ・ 以上の設定は避難所周辺の原則であり、1Fの校長室から四つ角まではセーフティゾーンとして、夜中のトイレ等に備えて、電気が見えるエリアとする。また、自販機も通常どおり使用可とする。 |
| 4 | 参加者 | <p>児童生徒・保護者（見込数計30名）、地域住民（同10名）、職員（同20名）</p> <p>アドバイザー（鶴見消防署 駒岡消防出張所員、NPO法人職員など）</p> <p>（参加はいずれも希望参加とし、児童生徒・保護者、地域住民は部分参加も可とする。）</p> |
| 5 | 調達物品 | シュラフ、発電機、投光器、備蓄食料、簡易トイレ（校内備蓄品） |

6 貸与物品 ランタン、毛布（1人2枚）（県教委より）

7 予算

項目	金額
食料費・飲料水代・消耗品費	・円
講師謝礼	・円
消耗品費	・円
合計	・円

8 当日の日程

8月31日（木）

15:30	スタッフ前日打ち合わせ<ランチルームにて>
-------	-----------------------

9月1日（金）

13:30	全校職員で準備 ①倉庫→体育館等へ資材運び ②会場作り ③調理パン等の調達	
15:00	スタッフミーティング・外部スタッフ紹介<体育館にて> 【運営協力】チャレンジドサポートプロジェクト、復興ボランティアタスクフォース、本校後援会	
16:00	受付開始（受付トリアージ体験・配給体験）	
16:30	全体説明、始めのことば、協力団体紹介 ・防災キャンプの趣旨説明 ・撮影、個人情報の配慮について ・各ブースの説明、食事の説明 ・熱中症対策について	
16:45	アクティビティ開始	
～	①防災講座<体育館にて>【協力】鶴見消防署 駒岡消防出張所	
18:15	②子どもワークショップ<食堂にて>【協力】NPO法人こととふラボ	
18:30	非常食体験 ①カレーライス配給<配給所にて> ②防災食試食体験【協力】(株)非常食研究所、相日防災(株) 東京都葛飾福祉工場	
19:30	就寝準備 ①全体説明<体育館にて> ②体育館と配慮教室に移動して、活動開始 ・段ボールパーティション組立て ・段ボールベッド組立て 【協力】ヤマトホームコンビニエンス(株)	簡易風呂体験<浴室にて> 風呂展示中の希望者に入浴体験
21:00	就寝（寝袋体験・避難所就寝体験）	
22:00	スタッフミーティング<職員室にて>	

9月2日（土）

6:00	起床・配給準備	並行して、段ボール等を片付け
7:00	配給体験（配給パン2個&カップスープ）	
8:00	ふりかえり	
8:15	閉会式・参加者解散	
8:30	片付け	
10:10	スタッフミーティング<職員室にて>	
10:45	終了（一部職員は駒岡地区避難訓練に参加）	

9 会場図

* 次ページ

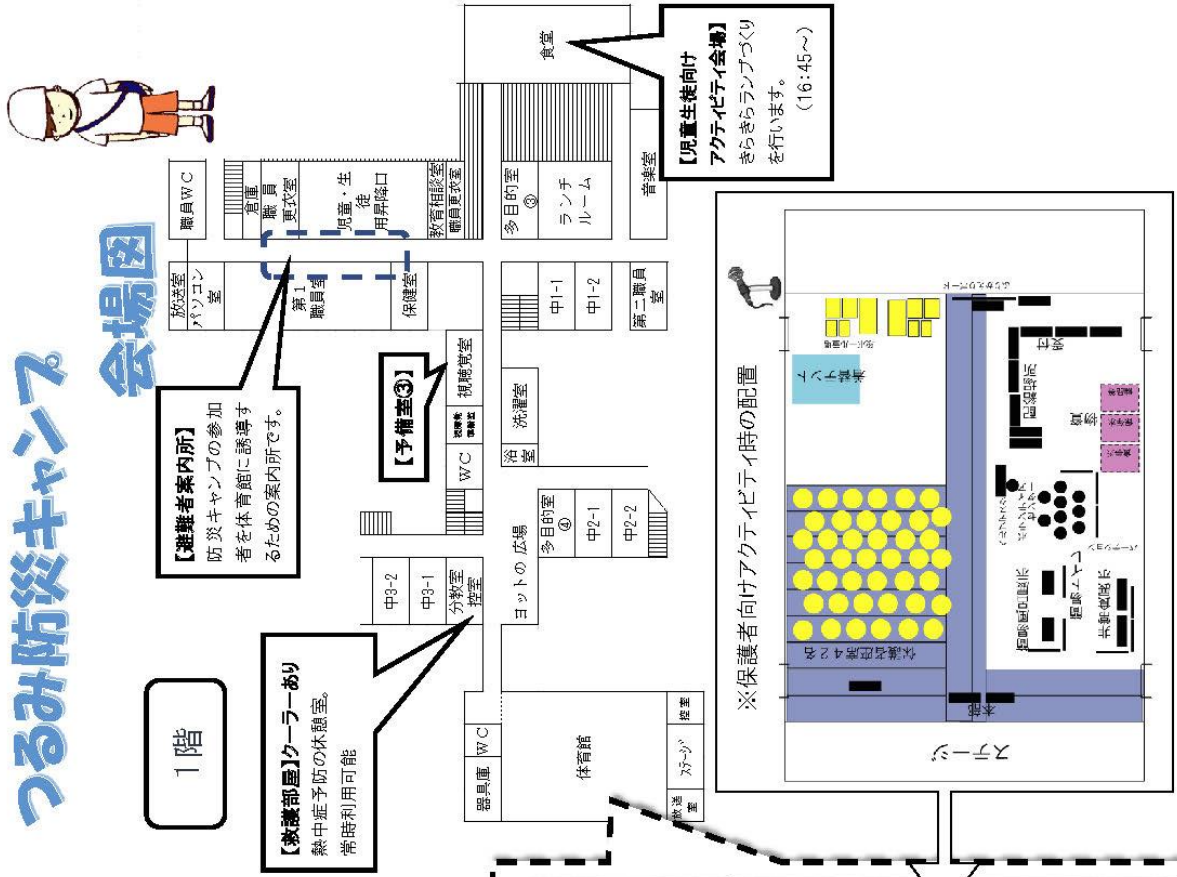
10 その他

- ・熱中症対策…校舎内に空調の効いた部屋（配慮教室）を設け、必要に応じてその部屋に移動できるようにする。教職員も同様とする。
- ・宿泊用の教室は参加者数によるが、基本的には、視聴覚室、多目的教室A、美術室、音楽室、中2と中3の各教室を使用する。全体準備で廊下に机椅子を出し、個人情報等を片付ける。
- ・宿泊希望者には、テント・寝具・防災セット・防災袋・食料（一部）の持込を認める。
- ・男女共にテント、パーティションを用意し、着替え、清拭などができるようにする。
- ・保護者と児童生徒の宿泊希望者は出入り自由とするため、前庭への自家用車駐車を認める。交通整理をする。1日（金）21:00に閉門し、翌2日（土）6:00に開門する。
- ・地域への広報は、後援会・近隣の福祉事業所とする。
- ・調理パンは傷みにくいものを購入。事務室の冷蔵庫を事前に空けて、そこに保管。
- ・水は1人1本ずつ500ml程度のペットボトル（マイボトル）を配り、不足分は食糧配給所の水タンクまたは2リットルボトルから補充する。
- ・ペットは犬のみ受け入れ、体育館横の門付近に居場所を作る。事前に申し出た参加者は、受付前に所定の場所につないでから受付をする。つなぐ鎖・餌などは飼い主が持参する。ペットを体育館・校舎に入れることは許可しない。終了後に、ペットと共に参加した参加者で居場所を清掃する。
- ・参加する職員は、1日（金）は11時間45分勤務、2日（土）は3時間45分勤務。8月5日～8月31日の中で週休日を1日設定する。

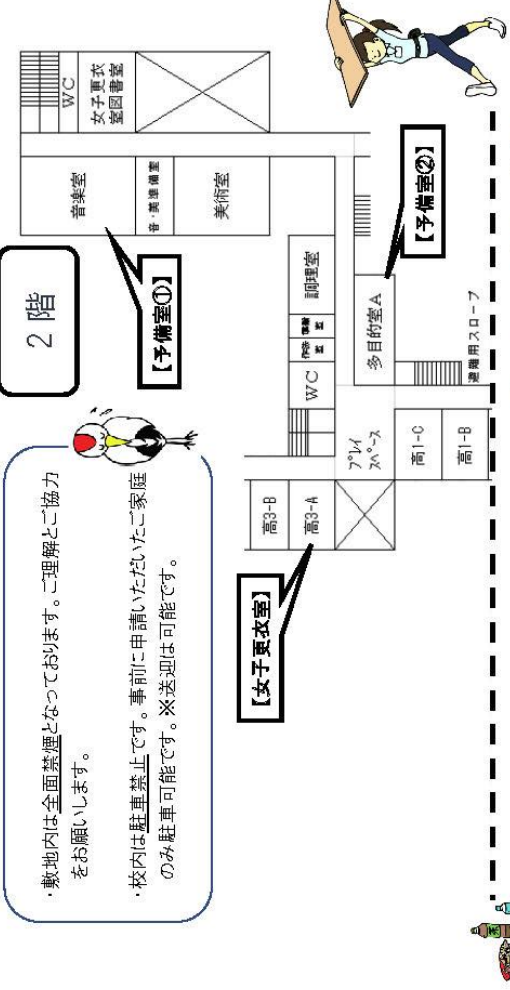
つるみ防災キャンプ



会場図



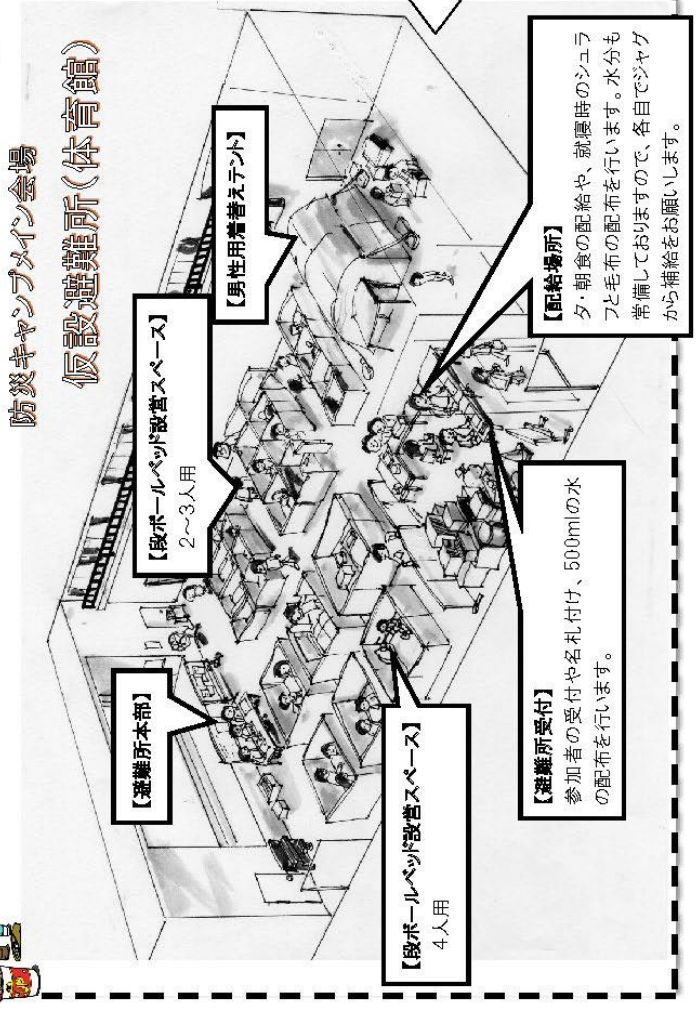
2階



敷地内は全面禁煙となっております。ご理解とご協力をお願いします。





校内は駐車禁止です。事前に申請いただいたご家庭のみ駐車可能です。※送迎は可能です。

防災キャンプメイン会場 仮設避難所(体育館)



(余白)

事例21 津久井養護学校 (生徒主体 ・ 地域主体)

名 称	宿泊防災学習
日 時	平成29年9月22日(金) 15時30分から 平成29年9月23日(土) 11時30分まで
実施場所	訓練実施 体育館 宿泊場所 体育館、教室
学習のねらい	「生徒留め置き決定後の動き」を主体とした訓練 ○避難所経験や防災に関する展示を通し、生徒、保護者の防災意識を高める。 ○避難所の設営・運営を通じて、教職員の運営力を高めると同時に運営方策の検証・整備を図る。 ○地域と連携して実施することで情報共有を図る。
主 催	学校主催(地震)
参加団体	奥畑自治会・相模原市緊急対策課・相模原市危機管理課 相模原市緑区役所地域振興課
参加人数	生徒(高等部1・2年生)22名・教員37名、近隣住民10人 (宿泊者 生徒22名 教員21名)
事前準備	5月 企画案作成 6月 相模原市と打合せ 7月 奥畑地区自治会へ周知、通知 8月 「防災宿泊学習」で使用する物品の確認
実施内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><シェイクアウト訓練> シェイクアウト後体育館へ移動</p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p><避難所整備体験> 生徒、教員、地域の方と協力して居住スペース作り</p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p><避難所設置訓練></p>  <p>【教職員で物資の運び込み】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><喫食訓練></p>  <p>【非常食の調理体験】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<p>＜就寝＞ 居住スペースの中で寝る体験</p>  <p>【寝床づくり】</p> <p>＜防災体験学習＞ 避難行動について体験</p>  <p>【布を煙に見立て避難行動】</p> <p>＜引渡し訓練＞ 担任からの手渡しによる引き渡し訓練 居住スペース内で過ごす体験 メンタルコミットロボット（セラピー用）体験 防災体験学習参加（希望者）</p>  <p>【メンタルコミットロボット「パロ」】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【地域の方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訓練を楽しく体験できた。また子供達の思いやりの心に接しられたことが財産となった。 ○一年間に1～2度一緒に防災訓練をしたい。また、先生の顔を知る事や子供達の顔を少しでも知る機会があると良い。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消火器を使った訓練の大きいプシューという音とものすごい煙に耐えられるか、また慣れるために行きたい。 ○少し安心した（本人が学校へ泊まれた事）。電気・ガス等止まっている状態で本人がどのくらい我慢できるかが不安。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒はもちろん、教員にとって様々なことを考える良い機会であった。一晩を過ごす緊張感は通常の訓練とは大きく違った。 ○実際に体験することが生徒への意識付けには最も良いと思う。 ○具体的に実施したことで、実際の場面ではどうなるか考えることができた。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を入れて、防災を身近に感じられるよう工夫した。 ○本校教室の一部は土砂災害警戒区域と重なる。有事の際に避難することになる体育館の過ごしを多くした。 ○居住スペースを設置することで、周囲の視線が入らないよう工夫した。 ○地域参加の活動を4つ用意（①居住スペース設置②喫食訓練③暗闇体験④防災体験学習会）して、興味のある活動を選び参加できるよう企画した。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災宿泊学習を実施するにあたり、本校の「防災教育の概要」を整理することができ、防災宿泊学習の目標を明確にすることができた。 ○生徒が「自助」「共助・公助」について学ぶ機会が増えた。 ○地域の参加者で初めて来校する方が多かった。 ○引き取り訓練では、保護者の参加が例年より増えた。 ○地域や関係機関との打合せを重ねていく中で、地域のニーズを知ることができた。

<p>課 題</p>	<p>○来年度は高等部1年生のみ実施。生徒数が減少することから、限られた予算内で実施できるよう今年度の内容を精選していく。 ○喫食訓練は地域の防災行事の内容と重なり、地域の参加者はなかった。地域の防災行事（喫食体験）と防災宿泊学習を合同で行うと効果的である。内容や時期を自治会の来季総会までに早めに伝え計画する。</p>
<p>ま と め</p>	<p>本校校舎の一部は、土砂災害警戒地域に含まれている。また、学校周辺地域をつなぐ道路も土砂災害警戒地域に囲まれ、有事の際には集落が孤立することも相模原市により想定されている。 数年前には土砂災害警戒情報が授業時間に発令され、体育館に児童生徒、教職員が避難したこともある。このようなことから、防災に対する意識は、地域はもちろん教職員ともに高い。 宿泊学習の打ち合わせを自治会長と重ねていく中で、「自治会では土砂災害や大地震が起きて、広域避難所へ移動する際には、まず養護学校のグラウンドに皆が集まってから移動することを呼び掛けている。」と述べていた。（広域避難所（小学校）へはかなり遠く、土砂崩れにより地域が孤立する恐れあり。） 今回のつながりをきっかけに有事の際には、本校を利用してもらう具体的な取り決めとして、覚書等を作成することを目指して動き出している。そのために自治会と本校だけでなく、相模原市とも連携し、地域の学校として役割を果たせるよう努力していく。</p>

平成29年6月27日 学部会
 7月 5日 GL会
 7月12日 企画会
 7月18日 職会議
 総務・高等部 4名

H29年度 高1・2防災宿泊学習細案

1. 目的

<生徒の目標>

- ・ 見通しを持って防災宿泊学習に参加する。
- ・ シェイクアウト訓練により、自分の身は自分で守ろうとする気持ちを養う。(自助)
- ・ 地域の方々や教員と協力しての避難所設営等の防災活動通して助け合いの気持ちを養う。
(自助・共助・公助)

<教員の目標>

- ・ 学校・家庭・地域と連携した訓練を実施し、防災に対する知識・理解を深め、自助、共助の意識を高める。
- ・ 宿泊訓練を通して生徒の安全確保に向けた危機管理体制を点検する。

<保護者の目標>

- ・ 訓練実施により、協力を依頼するとともに、安心、安全について理解いただく。

2. 実施日

平成29年9月22日(金) 15:30 ~ 9月23日(土) 11:30
 <9月24日(月) 参加生徒・教員振替休日>

3. 想定する災害レベル

- ・ 震度7クラス
- ・ 道路寸断、車両通行不能
- ・ 校舎に亀裂有り、崩壊につながる大きな被害なし
- ・ 固定していない教材等校舎内に散乱
- ・ 20:30停電発生、水道は出にくい状態。
- ・ 電話回線は不通
- ・ 雨風強く、グラウンドの避難困難

4. 宿泊対象

高等部1年(知11名・肢1名) 高等部2年(知10名・肢1名)
 校長・副校長・教頭・GL4名・看護師・高等部職員13名 合計44名

男女比	男	女
高1	6	6
高2	7	4
職員	10	11
合計	23	21

5. 実施場所

避難所設営① 体育館(生徒22名・職員18名 宿泊)
 ② 肢体学習室(生徒1名・職員2名 宿泊)
 布団配布場所 支援スペース
 調理場所 調理室
 配膳・喫食 会議室・音楽室
 生徒予備室 男子:高2-1教室・女子:女子更衣室
 教員予備室 高1-1・1-2教室

◆活動の流れ(1日目) 9月22日(金)

◆本部職員(管理職・GL)

○高等部職員

■学部外・小中職員

時間	内容	生徒の動き	本部の動き	教員の動き	来校者対応
13:10	防災宿泊学習 事前学習<自 活室>	宿泊学習の目的・内容を 知る。(高1,2生徒)		学部宿泊担当による事前学習	
13:40	14:00 15:00	LHR~ 帰りの会 (高1, 2着替えなし) 小・中・高3生徒下校 休憩 教室待機(高1,2生徒)	◆貸布団受け取り(1名)	◆GLで支援スペースのテーブルを音楽室に移動。ブルーシート敷き ◆○■貸布団支援スペースに運搬(手の空いている職員)	
15:25	シェイクアウト訓練		▶×××××緊急地震速報(西岡・震岩)×××××◀ 身を低く、頭を守り、動かない		
		安全姿勢をとり教室等で待機	◎本部設置 <職員室> ◆被害状況の確認と情報収集 ・児童生徒、教職員の状況、建物被害状況把握 (分担:1F 1名・2F 1名・3F 1名)	◆■GL、学部外職員は本部集合 ○高等部職員は生徒の安全確保 ○小・中学部職員は(生徒がいるものとして) 退避待機	
15:30	避難(体育館)	体育館へ移動 高2HI役(1名) 1Fより 避難(高3の職員)	◆避難指示(1名) ◆エマージェンシー報告	○高1,2職員生徒を誘導避難 ○高3職員は2年肢Hさんを階段で避難させる ■小・中学部(生徒がいるものとして) 体育館避難	タウンニュース来校
15:40		施設状況 ×F中教室、自立活動室、 保健室に土砂流れ込み使 用不可。 ×エレベーター停止 ×生徒昇降口ドア変形、ガ ラス破損飛散	◎本部移動 <進路相談室> ◆生徒教員の状況を掌握 ◆教育委員会への報告 ◆留め置き決定 ⇒避難所へ伝達 ◆保護者へ緊急連絡(メール 1名) ◆業務指示	○担任人数確認⇒学部L報告⇒本部報告 ◇高○年○組 在籍○名中、欠席早退者○名 現在○名 不明者○名 教員○名 現在○名 不明者○名 ■小中職員は人数確認後、全員本部(進路指導室)集合	
15:45			★救護室設置(教育相談室)・・救護衛生班 救護・衛生班は救護室に搬送、応急処置	◆役割に応じた業務~16:15まで◆ ▲指揮班からの新組織▲ (業務内容は別紙詳細あり) 1.情報整理(1名) 2.生活物資(1名) 3.ライフライン(1名) 4.食料・給水(1名) 5.救護・衛生(1名) 6.受付・案内(1名)	
15:55	今後の流れ説明	見直しを持つ パーティションの作り方を知る	◆地域の方の受付、掌握と誘導(受付・案内班)	◆○今後の予定説明および避難所パーティションづくり指導 (高宿泊担当)	★地域の方対応 (3名) 「パーティションづくり」
16:00	パーティション作り	教員や地域の方と協力して パーティションを作る	◆完成した部屋に評価をし、この後の過ごしに期待を 持たせる。(1名)	○高等部職員で避難所を設営する。近隣の方が見えた際は一緒に 作成するように生徒を促し、手の空いている教員が補助に入るよう 配慮する。 ■○寝具50セット、手の空いている職員支援スペースへ運搬。 ○調理担当準備(学部付き) ・湯沸かし⇒アルファー米に熱湯を入れておく。 ・レトルトカレー温め ・食器、飲み物等準備 ・会議室、音楽室セッティング	
17:00	パーティション完成 (休憩)	部屋に入ってみる 避難所で休憩			
17:15	非常食調理	調理室移動 非常食調理体験・配膳	◆ゴミ分別の袋準備(1名) ◆地域の方受付、誘導(1名・管理職)	◆○配膳 (調理室・音楽室) ◆○会議室、音楽室に準備、誘導	★地域の方対応 受付・1名 誘導・管理職 「喫食訓練」
18:00	喫食訓練	喫食			
18:30	(休憩)	避難所で休憩	◆シャワー室準備(2名)		
19:00	シャワー (休憩)	順番にシャワーを浴びる。 (予備運動着に着替え)		○生徒のタオル、着替えなど教室から避難ブースに持ってこさせ る。終了後は教室ロッカーに入れさせる。	
20:00	布団配布 (状況が整えば早める)	支援スペースより布団運搬 ・各ブースごと協力して行う ・体育館中央に集合	◆布団配布確認(1名) ◆ランタン、懐中電灯準備	○布団運搬	★地域の方対応 受付・1名 誘導・管理職 「ナイトワーク」
20:30	ナイトワーク (暗闇体験)	・体験の説明を聞く ・暗闇体験をする ・まどめ話を聞く ・解散⇒各ブースに戻る	◆消灯(1名) ◆点灯(1名) ◆体温計配布(1名)	○ナイトワーク説明(防災係) ◆○ポイントに立ち安全に留意する。 ○状況により教員が引率して体験を促す。	
21:00	就寝準備	・検温 ・教室水道を使用し、歯磨き、ト イレ等を済ませ各ブースで就寝	◎個別対応が必要な生徒が出た場合 男子:高2-1教室 女子:女子更衣室 ・対応教員は状況に応じて決める。	○各ブースで検温	
21:40	職員打ち合わせ			◆○1-2で打ち合わせ(数名は生徒掌握)	

◆活動の流れ(2日目)

9月23日(土)

◆本部職員(管理職・GL)

○高等部職員

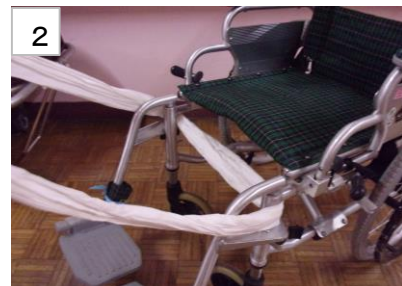
■学部外・小中職員

時間	内容	生徒の動き	本部の動き	教員の動き	来校者対応
6:30	起床・洗面	・検温 ・洗面 ・布団たたみ、運搬	◆生徒健康状況確認 ◆体温計回収(1名) ◆布団返却チェック(1名) ◆弁当受け取り(1名)	○生徒の健康チェック→学部L報告 →本部報告 ○布団運搬・・・1F?	
7:00	弁当受け取り				
7:15		弁当運搬			
7:30	朝食 <会議室>	・弁当を食べる ・ごみを分別して捨てる。	◆弁当ごみのとりまとめ(大久保)		
8:00	着替え・持ち物整理 (休憩)	・教室に戻り帰宅準備を整える。	◆講師対応(1名) ◆保護者、地域住民対応(2名)	○各ブースTは生徒の持ち物確認。荷物は各ブースに持ってこさせる。	★講師対応 1名・管理職
8:55	体育館集合	・体育館中央に移動着席	◆校内備蓄物準備(1名)	○生徒体育館誘導	★地域・保護者対応 受付・案内 1名・管理職 「防災体験学習」
9:00	防災体験学習				
<p>【主催：相模原市危機管理局緊急対策課 協力：津久井消防署】</p> <p>◎ステップ1 『災害に備えた事前準備～3日分の備蓄』 ・学校に備えているものの紹介 ・ご家庭で準備してもらうための模擬 ・3日分の備蓄入りリュック背負い体験</p> <p>◎ステップ2 『災害発生!!～あわてず、落ち着いて～』 ・教員とペアになり火災や外出先、エレベーターの中などでの避難行動をクイズ形式で行う。</p> <p>◎ステップ3 『避難所での生活～助け合い～』 ・避難所せ使用する機器材等の展示・体験(簡易トイレ・仕切りパーテーションなど)</p>					
		・協力機関へのあいさつのことば：生徒(高2) ・作業班作品プレゼント生徒(高1 ・高2)			
10:00	(休憩)	・休憩～クラスごとに着席し体育館待機			
10:20	引き渡し訓練		◆保護者に避難所の説明(必要に応じて渡邊)	○担任引き渡し確認	★保護者対応 各担任 「引き取り訓練」
11:25	S B生徒乗車				
11:30	S B発車			○自力生徒帰着連絡受け	
★職員片づけ★					
<p>* 布団返却(1名) * 会議室・音楽室・調理室復元(1名) * 段ボールベッド運搬(2名) * 避難所パーテーション解体、運搬(高職員)</p>					
12:30	職員解散				

■障害に配慮
した訓練■
(特別支援学校)

事例22 三ツ境養護学校 「さらしを使って車椅子を安全に避難する訓練」

概要	車椅子の児童生徒のための避難訓練
日時・場所	平成29年4月10日（月）13時～14時30分 本校2棟西階段
訓練のねらい	災害時、2階にいる車椅子に乗った児童生徒を安全で速やかに1階に下ろすよう救助方法について知り、訓練を行う。
対象	新転任の教職員
事前準備	車椅子の転倒防止バーを解除しておく
必要物品等	車椅子1台につき、さらし1反
実施内容 (訓練の概要・手順・教職員の配置状況など)	<p>○エレベーターが使用できない状況下、階段で車椅子ごと児童生徒を避難させる方法</p> <p>(1) 教員は2人一組で、児童生徒1人を避難させる。</p> <p>(2) 車椅子が進行方向を向いた状態で階段を下りると、児童生徒が前のめりになり恐怖心からパニック状態になり暴れたり、重心が前になることで転倒する危険があるため、車椅子の児童生徒は階段を後ろ向きで下りる。</p> <p>(3) 教員の内1人は、後ろ向きの車椅子を背後から支えながらブレーキを利用しつつ、段差の衝撃が少なくなるようにゆっくりと動く。手や足が車椅子より外側に出ないように注意する。(写真1)</p> <p>(4) もう1人は、さらしを持って階段の上に立ち児童生徒の足に注意しながらフレームにさらしをかける。(写真2) 段差の衝撃が少なくなるように注意する。ピンと張った状態にすると前輪が持ち上がり、後傾しすぎるため弛ませる。車椅子の動きに合わせて移動する。さらしは万が一に備えて腰に回す。児童生徒と向かい合うため表情をみながら落ち着くように言葉をかける。</p>
実施にあたり留意した点	<p>車椅子を両側から持ち上げて移動させる方法もあるが、本校の階段は、中央に手すりがあるため車椅子の両側に人が立って車椅子を持ち上げることができない。安全に避難する方法は1つではないことを周知した。</p> <p>ポイント▶ 車輪や肘掛は持たず、必ず可動性がない部分(フレーム)を持つ。 昇り下りともに背もたれ側が下段を向くようにする。</p> <p>← (例) こども医療センター理学療法室掲示物より</p>
工夫した点	安全に避難できるように教員間の訓練にした。いつでも避難できるように階段脇には、3人分のさらしが入った緊急避難用箱を常時設置しており、そのさらしを訓練時に使用するようにした。(箱がある意味の説明も含む。)



成 果	<p>肢体不自由教育部門の教員だけでなく、全員が避難の際に車椅子の児童生徒を安全に避難させることができるように意識を高め、技術を身につけることができた。</p>
課 題	<p>車椅子によってさらしをかける箇所が変わるので、全員で共有することが難しいことが分かった。</p>
今後の展開	<p>車椅子ごとにさらしをかける箇所が異なるので、自立活動教諭（理学療法士等）と一緒に確認しながら、担任以外でも緊急時にすぐ対応できるようにさらしをかける場所にシールなどを貼り、分かりやすくなるように工夫していきたい。</p>

事例23 金沢養護学校 「津波を想定した車椅子の訓練」

概要	津波避難訓練にて、児童生徒を車椅子ごと2階へ階段移動する訓練を実施
日時・場所	平成29年6月30日（金）10:30～11:00 金沢養護学校 本校校舎
訓練のねらい	○車椅子を持ち上げて階段を上る方法、及び避難経路について理解する。 ○安全な避難方法を検討し、学校全体で共通理解を図る。
対象	肢体不自由教育部門の児童生徒及び教職員
事前準備	○現場の指揮官のヘルメットに、テープで印をつけておく ○知的障害教育部門の職員から車椅子運搬応援職員を20名ほど選出 ○選出された職員を中心に、車椅子に予め目印のビニールテープを巻いておき、その部分を握って持ち上げる等の研修 ○実際に教職員を乗せた車椅子を持ち上げて、階段を上る研修
必要物品等	訓練のために必要とした物品は、特になし
実施内容 (訓練の概要・手順・教職員の配置状況など)	<p>○シェイクアウト訓練後、安否確認・校舎内安全確認を行った後に津波警報の訓練放送を流し、津波避難訓練を実施した。</p> <p>(1) 地震の訓練放送を流し、全員でシェイクアウトを行う。</p> <p>(2) 本部を職員室外の廊下に設置、避難誘導班を中心に児童生徒の安否確認及び校舎内安全確認を放送で指示する。</p> <p>(3) 同時に消火警備班へ火災有無の確認・救護衛生班に現状報告をするよう指示する。</p> <p>(4) 津波警報の訓練放送を流し、1階の児童生徒は2階へ避難するよう指示する。</p> <p>(5) 捜索救出班（車椅子運搬応援職員を含む）は、4人一組となり、現場の指揮官の指示で2箇所の階段に分かれ、肢体不自由児童生徒を2階へ上げる。</p> <p>(6) 同時に、本部職員で会議室を整理して、救護衛生班用スペース及び肢体不自由部門児童生徒用の避難場所を作る。</p> <p>(7) 同時に、救護衛生班及び搬出管理班に、応急セットや医療ケア等の機材・事務室貴重品を持って2階へ避難するよう指示する。</p>
実施にあたり留意した点	絶対に児童生徒を怪我させないよう細心の注意を払いながらも迅速に2階に避難すること。



工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○車椅子持ち上げ時につかむ位置へビニールテープで目印をつけておく。 ○階段のすれ違いで、車椅子は内側を通る、と事前にルールを決める。 ○現場の指揮官（学部長）がそれぞれの階段でその場を取り仕切る。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が車椅子に乗ったまま、運び上げの経験を積めた。 ○職員それぞれが声を掛け合って、昨年度の同訓練よりもスムーズに避難できた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○応援に向かう人手の確保ができない状況での対応。 ○医療ケア等を実施するための場所・資機材の確保、放送が使えない際の伝達手段。 ○余震もある中、より安全に避難するために避難用スロープを設置する等の検討。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○事前準備時の研修・実習を、全職員対象とし、全員で共通理解する。 ○避難用スロープについて、設置を要望する。

事例24 相模原中央支援学校 「知肢盲ろうの4障害の児童生徒のための訓練」

概要	全校避難訓練（地震からの火災発生を想定）
日時・場所	平成29年5月30日（火）10時30分～ 11時 場所：校内
訓練のねらい	○火災時における応急対策と幼児、児童、生徒の安全な避難誘導等の動きを確認する。 ○2階の肢体不自由教育部門の生徒の安全な搬送方法を確認する。
対象	全校幼児児童生徒及び全職員
事前準備	○全職員が車椅子を搬送できるように、車椅子搬送訓練 ○情報保障として、ポータブルスピーカーを避難場所となる校庭に設置
必要物品等	さらし、ポータブルスピーカーとマイク、のぼり
実施内容 （訓練の概要・手順・教職員の配置状況など）	○授業中に火災が発生 （1）本部は、状況確認をして全校に避難指示を出し、119番通報する。 （2）消火係は消火器を持参し、直ちに初期消火を行う。 （3）非常持ち出し係は非常持ち出しリストに記載してあるものを搬出する。 （4）全校職員、幼児児童生徒は避難場所（☀グラウンド、☂体育館）に避難。担任等は安全に避難誘導する。 （5）避難経路の開錠・外階段の安全確保は各自で行う。 （6）避難終了後、幼児児童生徒とともに担当教員、ボランティア等関係者を含めて点呼を行う。 （7）車椅子搬送班は車椅子の生徒を2階から1階まで搬送する。 （8）搜索班は行方不明者の搜索をする。（第1次搜索） （9）負傷者の状況を確認した上で、搬送班のみではなく避難を完了したクラスの担任等も搬送に加わる。
実施にあたり留意した点	○情報の保障ができるようにした。 ○車椅子搬送の際、安全に留意した。
工夫した点	○避難場所で手話通訳者をおき、状況や連絡、講評などを伝えられるようにした。 ○視覚障害教育部門では避難する際や、避難場所では担任が周りの状況などを個別に伝えるようにした。 ○担任以外にも車椅子搬送ができるように、車椅子に搬送方法を表示し、車椅子を安全に持てる個所にシールを貼った。
成果	○安全に避難することができた。 ○避難集合した際に、連絡や講評などの内容を多くの幼児、児童、生徒や職員に伝えることができた。
課題	避難が必要な際等、校内に設置してある電光掲示板やパトライトを使用し、聴覚障害のある幼児、児童にもサイレンや指示を伝わりやすくする。
今後の展開	引き続き、シェイクアウト訓練や全校防災訓練等を実施していく。

実践的防災訓練事例集【平成29年度版】

平成29年12月

神奈川県教育委員会
教育局総務室教育ビジョン・防災グループ

(電話) 045-210-8078